

科目名	科目担当代表教員	ページ数
食生活論	荒井 三津子	3
運動学実習	大森 圭	8
運動学実習	大森 圭	13
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	18
リハビリテーション障害学	金 京室	22
救急医学	俵 敏弘	26
言語障害治療学	金浜 悦子	30
基礎運動療法学	柴田 恵理子	34
義肢装具学実習	牧野 均	38
義肢装具学実習	牧野 均	42
神経障害理学療法学実習	柴田 恵理子	46
神経障害理学療法学実習	柴田 恵理子	50
内部障害理学療法学実習	佐藤 明紀	54
内部障害理学療法学実習	佐藤 明紀	58
日常生活活動学	佐々木 幸子	62
物理療法学	水本 淳	66
理学療法総合セミナー	佐藤 明紀	71
臨床実習Ⅲ	高田 雄一	76
キャリアビジョン	池野 秀則	81
キャリア形成	木村 悠里菜	85
小児科学	石黒 信久	89
脳神経内科学	松谷 学	93
臨床薬理学	續 佳代	98
老年医学	瀧山 晃弘	102
チーム医療概論	佐藤 明紀	106
地域包括ケアシステム論	水本 淳	110
統計と社会調査法	小田 史郎	114
運動生理学	侘美 靖	119
病態運動学	牧野 均	124
理学療法研究Ⅱ	橋田 浩	128
理学療法研究セミナー	橋田 浩	133
理学療法研究法	佐々木 幸子	138
理学療法評価学Ⅲ	松田 直樹	142
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀	146
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀	151
スポーツ領域理学療法技術セミナー	高田 雄一	156
スポーツ領域理学療法技術セミナー	高田 雄一	161
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	166
トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー	大森 圭	171
子どもの理学療法学実習	横井 裕一郎	176
子どもの理学療法学実習	横井 裕一郎	180

地域理学療法学演習	水本 淳		184
地域理学療法学演習	水本 淳		189
臨床実習Ⅲ(検査測定)	佐藤 明紀		194
臨床実習Ⅳ(評価)	高田 雄一		199
臨床実習Ⅱ(訪問・通所)	水本 淳		204

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係が築くことができる」と、作業療法学科でのディプロマ・ポリシーとして、「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。「リハビリテーション栄養学」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							
○ 医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。 ○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。 ○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。 ○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。							
授業の方法							
①教科書を利用し、確実に講義の内容を把握できるよう指導する。 ②必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。 ③内容に合わせて、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。 ④中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜「食」の学び方＞「食」は生理的、文化人類学的、社会的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	科書全体の構成を把握し、「食べる」ことを学ぶ意義を考察する。90分程度。
担当教員			
第2回	＜食べるヒト・食べるってなに？生きるってなに？＞ 私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	教科書P2～8を読んでくること。90分程度。	講義で学んだ「食べる理由」について整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	教科書9～14まで読んでくること。90分程度。	消化の仕組みと腸内環境について理解する。90分程度。
担当教員			
第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	教科書P17～26まで読んでくる。90分程度。	ヒトが痩せたい理由とダイエットの問題点について整理しておく。90分程度。
担当教員			

第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	前回学んだ『食べない理由』を復習し、P28～30、P72～73を読んてくる。90分程度。	「食のタブー」とベジタリアン、フードファディズムについて説明できるようにしておく。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	教科書P41～51まで読んでおくこと。90分程度。	作法が必要な意義について考察しておくこと。90分程度。
担当教員			
第7回	＜ヒトから人間へ・食べるモノの変遷＞ 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	教科書P54～61まで読んでおくこと。90分程度。	日本の食の歴史を整理しておくこと。餌と食事の違いを説明できること。90分程度。
担当教員			
第8回	＜おいしさとはなにか＞ 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	教科書のP72～80まで読んでおくこと。90分程度。	「おいしい」とはどのようなことか整理しておくこと。90分程度。
担当教員			
第9回	＜ヒトはなぜ食べるのか＞ 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前回までの講義内容を復習しておくこと。90分程度。	中間の総まとめの講義内容を復習しておくこと。90分程度。
担当教員			
第10回	＜「食」の未来＞ 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	教科書p84～96まで読んでおくこと。90分程度。	養殖や染色体、遺伝子組み換えなどについて整理しておくこと。90分程度。
担当教員			

第11回	＜食事空間を学ぶ＞ 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	教科書p98～105まで読んでおくこと。90分程度。	台所と調理の進化を整理し、これからの食事について考察すること。90分程度。
担当教員			
第12回	＜「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告＞ 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	教科書p107～p115まで読んでおくこと。90分程度。	周囲にある食関連の広告を調査整理すること。90分程度。
担当教員			
第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	教科書p81～83、p124～p132を読んでおくこと。90分程度。	自分の周囲の食卓について調査してみること。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	前回の講義内容を整理しておくこと。90分程度。	食卓の演出について具体的なテクニックを整理する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。	年中行事に食べるものについて調査しておくこと。90分程度。	教科書全体の重要事項をまとめておくこと。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト 2回	

その他	30	調査レポートの評価
教科書		
食学入門ー食べるヒト・食べるモノ・食べるコトー / 荒井三津子 / 光生館		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
私語厳禁。 毎回必ず教科書を持参すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習(1組)				ナンバリング	2230
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
理学療法を行うための専門基礎科目である運動学の知識と技術を身につけることを達成するための実習科目である。							
授業の概要							
運動学を基礎とし、実習において体表解剖、臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。さらに機器を用いた動作分析を通して四肢、体幹の運動様式について理解を深める。							
到達目標							
・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる ・機器を使用した動作分析を理解できる ・上肢、手指の運動・動作解析ができる							
授業の方法							
各授業はじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。							
ICT活用							
必要に応じてオンライン授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 90分	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特徴 の復習と知識の整理 90分	座位・立位の姿勢観察の整理と まとめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第3回	・歩き始めの動作解析 歩きはじめのCOPの変化について	歩きはじめの運動学的特徴の復 習と知識の整理 90分	歩きはじめのCOPについての整 理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動 学的特徴の復習と知識の整理 90分	寝返り・立ち上がり動作の整理と まとめ 90分
担当教員	橋田 浩		

第5回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理 90分	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知 識の整理 90分	正常歩行観察と解析の整理とま とめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第7回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 上肢帯 肩甲上腕リズムの運動学的解析	肩甲上腕リズムについての復習と 知識の整理 90分	肩甲上腕リズムについての整理 とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第8回	・筋出力の計測1 下肢 膝関節トルク計測について	関節トルク(関節モーメント) およ び筋力についての復習と知識の 整理 90分	膝関節トルクの計測についての 整理とまとめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第9回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 手指 テノデーシスアクションについて	テノデーシスアクションについて の復習と知識の整理 90分	テノデーシスアクションについて の整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第10回	・筋出力の計測 握力 肘関節の位置の違いによる握力計測	握力計測についての復習と知 識の整理 90分	握力計測についての整理とまと め 90分
担当教員	橋田 浩		

第11回	・軟部組織の運動学について1 上肢体表解剖と触診	上肢軟部組織についての復習 と知識の整理 90分	上肢軟部組織についての整理 とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第12回	・軟部組織の運動学について2 下肢軟部組織の体表解剖と触診		
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	出席、小テスト、参加態度、課題レポート、理解度等により総合的に判断する	
その他	0	なし	
教科書			
・観察による歩行分析 沢月 月城慶一ら 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社			
参考文献			
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A. Neumann 医歯薬出版株式会社			
履修条件・留意事項等			

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習(2組)				ナンバリング	2230
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
理学療法を行うための専門基礎科目である運動学の知識と技術を身につけることを達成するための実習科目である。							
授業の概要							
運動学を基礎とし、実習において体表解剖、臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。さらに機器を用いた動作分析を通して四肢、体幹の運動様式について理解を深める。							
到達目標							
・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる ・機器を使用した動作分析を理解できる ・上肢、手指の運動・動作解析ができる							
授業の方法							
各授業はじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。							
ICT活用							
必要に応じてオンライン授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢 下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 90分	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特徴 の復習と知識の整理 90分	座位・立位の姿勢観察の整理と まとめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第3回	・歩き始めの動作解析 歩き始めのCOPの変化について	歩き始めの運動学的特徴の復 習と知識の整理 90分	歩き始めのCOPについての整 理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動 学的特徴の復習と知識の整理 90分	寝返り・立ち上がり動作の整理と まとめ 90分
担当教員	橋田 浩		

第5回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理 90分	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知 識の整理 90分	正常歩行観察と解析の整理とま とめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第7回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 上肢帯 肩甲上腕リズムの運動学的解析	肩甲上腕リズムについての復習と 知識の整理 90分	肩甲上腕リズムについての整理 とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第8回	・筋出力の計測1 下肢 膝関節トルク計測について	関節トルク(関節モーメント) およ び筋力についての復習と知識の 整理 90分	膝関節トルクの計測についての 整理とまとめ 90分
担当教員	橋田 浩		
第9回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 手指 テノデーシスアクションについて	テノデーシスアクションについて の復習と知識の整理 90分	テノデーシスアクションについて の整理とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第10回	・筋出力の計測 握力 肘関節の位置の違いによる握力計測	握力計測についての復習と知 識の整理 90分	握力計測についての整理とまと め 90分
担当教員	橋田 浩		

第11回	・軟部組織の運動学について1 上肢体表解剖と触診	上肢軟部組織についての復習 と知識の整理 90分	上肢軟部組織についての整理 とまとめ 90分
担当教員	大森 圭		
第12回	・軟部組織の運動学について2 下肢軟部組織の体表解剖と触診	上肢軟部組織についての復習 と知識の整理 90分	下肢軟部組織についての整理 とまとめ 90分
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	出席、小テスト、参加態度、課題レポート、理解度等により総合的に判断する	
その他	0	なし	
教科書			
・観察による歩行分析 沢月城慶一ら 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社			
参考文献			
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社			
履修条件・留意事項等			

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	2232
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
リハビリテーションにおける身体機能および能力の補助的な手段に多様な機器等が開発されており、医療から福祉、介護までその領域は広く、その特性を工学的な視点から実用性に至るまでの視点を身につけるための科目である。作業療法および理学療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。」と関連している。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「運動学実習」、「機能代償学」、「理学療法技術セミナーⅠ」と関連する。							
授業の概要							
リハビリテーションのための工学の基礎を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について学ぶ。特に理学療法士・作業療法士に必要な人体の制御機能および情報処理特性などに関して生体力学・人間工学的観点から、その特性に適合した福祉機器の開発とその利用方法について学習する。							
到達目標							
リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。 車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。 自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。 理解度についてまとめのテストを用いて確認する。							
ICT活用							
Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーション障害における用具支援について コミュニケーションが困難な方への用具活用について学びます。	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第4回	身近なICTを活用 スマホやパソコンのアクセシビリティ機能について学び、余暇や学習支援での活用方法を学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第5回	eスポーツ Eスポーツにおけるアクセシビリティと、リハビリテーション場面での活用方法について学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第6回	自助具について考えよう① 身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第7回	自助具について考えよう② 身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第8回	リハビリテーション工学についてまとめとテストを用いて復習し、理解を深める	これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)	全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(40%)、講義内課題(30%)、出席態度・参加度等(30%)	
その他	0		
教科書			

なし

参考文献

都度紹介する

履修条件・留意事項等

8回中3回の欠席で単位の認定が不可

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション障害学				ナンバリング	2320
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室、未定						
授業の位置づけ							
基礎医学と臨床医学の知識を統合して、作業療法や理学療法の専門領域へつなげる科目であり、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす能力を養うための科目である。 作業療法学科および理学療法学科のディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」を達成するための科目である。							
授業の概要							
本科目では基礎医学と臨床医学の知識を論理的基盤とし、理学療法および作業療法における評価や治療について柔軟に考える。ある特定の障害を正常と比較しながら運動学的、病理学的、解剖学および生理学的に考察することで障害の実態を把握する。また、必要なリスク管理、検査項目の選択および治療プログラムの立案についても根拠をもって考察し、基礎医学と臨床医学の繋がりを体感する。展開する分野は神経障害、内部障害、動器障害とし、2年前期までに学んだ専門基礎科目と専門科目の理解を深め、臨床実習に向けて応用力を養う。							
到達目標							
1.神経系の構造と機能を再確認し、多様な症状・障害に対する対処法を論理的に説明できる。 2.筋・骨格系の構造と機能を再確認し、運動器疾患とそれらに起因する障害像を把握し、理学療法や作業療法に応用できる臨床的な知識を習得する。 3.中枢神経障害の神経制御機構について説明できる。							
授業の方法							
小グループによる演習や講義を織り交ぜ、問題解決能力の向上をはかる。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金京室:病院などの身体機能障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし,リハビリテーション障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

単元別に適宜課題を出し、提出された内容を精査したうえで、重要な内容について講義内でフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中枢神経系の解剖生理学 脳・脊髄の構造(機能局在・伝導路など)と機能を臨床的視点から説明できる。	解剖学・生理学の教科書を見直して関連領域の知識をまとめておくこと。(90分)	大脳皮質の機能、上行路、下行路について復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	中枢神経障害でみられる症状① 錐体路障害で出現する様々な症状を臨床神経学的に説明できる。	解剖学・生理学の教科書を見直して関連領域の知識をまとめておくこと。(90分)	前回の授業内容もふまえ、中枢神経の構造と機能について復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	神経疾患で出現する症状の捉え方 特に上位ニューロン障害と下位ニューロン障害、感覚障害について臨床的な視点から説明できる。	講義ノートを見直し、脊髄内の上行路、下行路について予習すること。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	中枢神経障害でみられる症状② 球麻痺症状、高次脳機能障害、筋緊張異常などの症状を説明できる。	特に脳神経の機能と脊髄反射のメカニズムについて予習すること。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第5回	上肢関節の解剖学と運動学:肩関節、肘関節、手関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。	上肢の関節について解剖学や運動学の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第6回	脊柱の解剖学と運動学:頸椎、胸椎、腰椎の構造と関節運動の特徴を説明できる。	脊柱の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第7回	下肢関節の解剖学と運動学①:股関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。	股関節の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	未定		
第8回	下肢関節の解剖学と運動学②:膝関節、足関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。	膝関節、足関節の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	未定		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元ごとに簡単な授業内課題(80%)、授業参加度(20%)	
その他	0		
教科書			

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

3 回欠席すると単位を取得できないので注意すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	2318
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	俵 敏弘、高橋 信行						
授業の位置づけ							
医療の現場において必要とされる救急処置について講義を行う。理学療法を実践にするために必要な基本的知識を身につけることを目的とする科目である。理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
応急処置を適切に行うことは医療関係者のみならず、一般の人間にも必要とされる。講義では主な外傷と疾病について応急処置の方法およびその必要性を説明する。また、応急処置を必要とする病態についても解説する。専門科目の急性期の理学療法分野の基礎となる。							
到達目標							
(1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。 (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。 (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。 (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。							
授業の方法							
スライドを中心に講義を行う。							
ICT活用							
グーグルフォームを利用した試験を行う予定である。							
実務経験のある教員の教育内容							

現役の救急専門医等が講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験結果についてフィードバックを行う予定である。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		

第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第7回	(疾病3)心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	試験の成績	
その他	0		
教科書			

指定しない。

参考文献

指定しない。

履修条件・留意事項等

学生証を用いた出席認証を行うため、忘れず持参すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		言語障害治療学				ナンバリング	2336
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金浜 悦子						
授業の位置づけ							
臨床現場で接する言語聴覚及び嚥下障害全般にわたる専門的な知識を得ることにより、患者や地域で暮らす利用者とのコミュニケーション能力を高めることができ、より良いリハビリテーションの提供ができる。又、当事者をとりまくあらたな環境整備を考えるための応用力を身につけることを目的とする。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」と関連する。							
授業の概要							
失語症を中心に、成人及び小児のコミュニケーション全般について、又高齢者を中心とする摂食嚥下障害について、それぞれの機能の仕組みや障害の特徴について解説し、評価や対応方法を習得する。							
到達目標							
・言語（失語症を中心に）や聴覚障害者とのコミュニケーション技術、支援方法を習得する。 ・医療、福祉、教育の現場等においての言語聴覚士の領域の専門的な知識について理解を深めることで、チームとしてより良い連携をし幅広い対応ができるセラピストになる。							
授業の方法							
教科書、配布資料、パワーポイントを用いての講義形式で行う。失語症者との接し方については実践体験を行う予定。							
ICT活用							
特になし							
実務経験のある教員の教育内容							

言語聴覚士として、医療機関、訪問看護ステーション、介護保険施設に勤務し、現在はNPO法人で失語症に特化した支援活動に取り組む。20年の臨床経験を活かし、言語障害全般のとらえ方や支援方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各講義のポイントを教科書や配布資料に則って復習チェックしておく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】言語聴覚士の成り立ちや仕事内容などを紹介する。又言葉の持つ役割やしぐみ、主な言語障害の種類について学ぶ。	教科書巻頭カラーページP2～16を読む(30分)	配布資料を復習し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第2回	【失語症①定義・症状】失語症とは、発話のみに限らず理解の障害であることを学ぶ。又、主な失語のタイプの症状や特徴を知り、失語症を正しく理解する。	第1章 失語症P24～47を読む(60分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(40分)
担当教員			
第3回	【失語症②評価・接し方】様々なタイプがある失語症を評価する方法や観察点について、又接し方のコツについてを学ぶ。	第1章 失語症P48～58を読む(30分)	教科書・配布資料を読み、小テストに備える。(90分)
担当教員			
第4回	【失語症③会話実践体験・小テスト】失語症者との会話場面を想定し、接し方や会話のコツについて実践を通して学ぶ。まとめとして失語症についての小テストを行う。	配布資料の接し方のコツを読み、次回実践学習に備える。(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			

第5回	【その他のコミュニケーション障害】失語症と間違われやすい運動性構音障害について、また、聴覚障害について知識を深める。	第Ⅰ部第2章運動性構音障害p60～72、第Ⅱ部第2章聴覚障害p138～141まで読む(30分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第6回	【摂食嚥下障害①】高齢者の死亡原因の上位とされる摂食嚥下障害について嚥下機能や障害の特徴について学ぶ。	第Ⅰ部第4章摂食嚥下障害p86～94を読む(30分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第7回	【摂食嚥下障害②】嚥下障害の評価時の観察点や簡易検査の方法、訓練内容や対応を理解し、多職種がチームとなり関わる重要性を知る。次回のテストに向けてポイントを整理する。	第Ⅰ部第4部摂食嚥下障害p90～94を読む(20分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理し、小テストに備える。(90分)
担当教員			
第8回	【小児の言語障害・小テスト】近年、小児の言葉の発達や学習支援のニーズが増加傾向にある。小児の主な言語障害について学ぶ。摂食嚥下障害・その他について小テストを行う。	第Ⅱ部第6章学習障害p192～202を読む(20分)	全講義の配布資料に目を通し、復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	講義の出席姿勢と小テストの成績。	
その他	10	各種届(欠席・遅刻)の提出必須。	
教科書			

図解やさしくわかる言語聴覚障害 小嶋知幸 編著 ナツメ社

参考文献

- ・脳卒中後のコミュニケーション障害 竹内愛子／河内十郎 編著 協同医書
- ・絵でわかる言語障害 毛束真知子 著 学研
- ・失語症の理解とケア 遠藤尚志 著 雲母書房
- ・神経心理学入門 山鳥 重 著 医学書院
- ・口から食べる嚥下障害Q&A 藤島一郎 著 清水一男絵 中央法規 他

履修条件・留意事項等

教科書、配布資料の持参。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		基礎運動療法学				ナンバリング	3504
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」および「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」ことにも関連する。 「解剖学」、「生理学」、「運動学」、「整形外科学」、「内科学」と関連し、3年生で履修する「専門科目」の実習の基礎となる。また、「臨床実習」を理解するための基礎ともなる。							
授業の概要							
理学療法における運動療法の歴史、意義、目的について概説し、運動による呼吸・循環・代謝系への影響、筋の収縮様式、関節拘縮、筋萎縮、日常生活におけるバランスやスタビリティ等、運動療法の基礎となる問題について学習する。また、総論講義後に各運動療法の各論についても基礎を学ぶ。							
到達目標							
① 運動療法に関する基礎知識と基本的な考え方を理解する ② 運動療法に関する基本的な用語を説明できる ③ 運動療法に関する基本的な方法を見て理解できる							
授業の方法							
教科書を用いる講義形式ですすめる。適宜、講義資料を配布する。 確認課題を実施し、内容の確認を行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンライン・オンデマンド等の対応を検討する。 授業資料をGoogle Classroomにて公開し、復習に活用できるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は、理学療法士としての臨床経験、臨床実習の指導の経験を活かし講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認課題を回収後、課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 運動療法の基礎1:骨・関節の基礎知識を確認し、骨・関節の運動療法に関する基本事項を整理する	教科書p43～p68を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、骨・関節について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	運動療法の基礎2:筋・神経の基礎知識を確認し、筋・神経の運動療法に関する基本事項を整理する	教科書p69～p104を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、筋・神経について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	運動療法の基礎3:運動と呼吸・循環・代謝の基礎知識を確認し、運動と呼吸・循環・代謝の運動療法に関する基本事項を整理する	教科書p105～p134,421～489を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、運動と呼吸・循環・代謝について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	運動療法の基礎4:運動制御と運動学習の基礎知識を確認し、運動制御と運動学習の運動療法に関する基本事項を整理する	教科書p135～160を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、運動制御と運動学習について運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	基本的な運動療法1:関節と筋に対する運動療法の実際について基本事項を理解する	教科書p186～252を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、関節と筋肉に対する運動療法について理解しまとめること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	基本的な運動療法2:脳・神経障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する	教科書p269～281、325～336、370～385を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、脳・神経障害に対する運動療法について理解しまとめること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	基本的な運動療法3:姿勢障害・歩行障害に対する運動療法の実際について基本事項を理解する	教科書p337～p369を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、姿勢・歩行障害に対する運動療法について理解しまとめること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	まとめのテスト	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容について復習すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第1～7回講義の確認課題を30%、第8回講義の最終課題を70%として評価に加味し、総合評価とする	
その他	0		
教科書			

運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版, 市橋則明 編集, 文光堂

参考文献

運動療法学 第3版, 吉尾雅春 編集, 医学書院

履修条件・留意事項等

解剖学、機能解剖学、生理学、運動学、内科、整形外科で学んだ知識について十分復習して授業に望むこと

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学実習(2組)				ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
装具の実習では、足底板、プラスチック短下肢装具を製作することにより、装具の機能と実際の処方について理解を深める。義肢に関しては、実際の下腿切断の患者様、大腿切断の患者様を通して義肢使用調整の実習を行い、義足の機能と異常歩行に対する対処方法について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車椅子の採型については車いすの患者様を通して実際の採寸し理解を深める。							
到達目標							
① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。 ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。 ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。							
授業の方法							
基本的には小グループを編成し、グループごとに装具製作や車いすの設計を行い、製作の実践について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」について「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実践について理解する。「義肢の実際」「装具の実際」について、臨床のPTや義肢装具士の先生に見学・講義を行ってもらい、「義肢」「装具」「車いす設計」の実践について学ぶ。							
ICT活用							
スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 歩行分析 プラスチック短下肢装具の製作 ① 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。 グループワークにて、疾患を想定し臨床的な装具の設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	プラスチック短下肢装具の製作 ② 陽性モデル修正 足底板の製作 ① 採型と製作 歩行時の足底圧分布を計測し足底板の設計と採型・製作を行う。グループワークにて、疾患を想定し臨床的な足底板の設計を行う。	足底板を設計し確認する。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	得られた歩行データから足底板の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 ③ プラスチック成型へ 足底板の製作 ② 製作 グループにて協力し、プラスチック成型、制作を行う。 「装具と歩行」講義 正常歩行と装具についての講義	足底板の設計・修正、プラスチック短下肢装具の設計を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の修正・確認を行う。実習の工程をまとめる。正常歩行について復習する。(90分)
担当教員			
第4回	プラスチック短下肢装具の製作 ④ 製作、完成へ 足底板の製作 ③ 製作、完成へ 「車いす設計」 ① 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。 歩行実習 装具装着にて歩行を行い、「正常歩行との相違」についてグループワークを行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。プラスチック短下肢装具の設計・修正を行う。車いすについて復習をしておく。正常歩行について復習をしておく。(90分)	歩行時の足底板挿入前後の足底圧分布を比較し考察を行う。実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	義肢製作所見学 義肢装具の制作の実際について実習する。下腿切断者のデモを通して、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。	下腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	義肢装具の制作の実際について確認する。見学、実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	義肢装具の知識の整理 義肢装具のパーツ、構造について理解する。 歩行分析と大腿義足の処方の実際 ① 製作物を用いて正常歩行と装具歩行の違いについて動作分析を行い、歩容改善への応用について理解する。 ② 模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 「車いす設計」 ②車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う	歩行周期と大腿義足の基礎事項について確認しておく。大腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異常歩行の対処の実際について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	「臨床における装具の実際」 臨床で従事する理学療法士を招き。「臨床における装具の実際」について学ぶ。 講義後、「義肢学」と「装具学」の実際について、まとめの課題を行う。	「臨床における装具の実際」について確認する。装具の構造について確認する。「義肢学」と「装具学」の実際」と「車いすの設計の実際」について、復習をしておく。(90分)	車いすの設計を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。義肢・装具の構造について確認する。(90分)
担当教員			
第8回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① 「シーティングの実際」について講義 ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について理解する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習内で製作する装具と製作に取り組む態度、実習に取り組む態度、および毎回のレポート課題および「義肢学」と「装具学」の実際」課題、「車いす設計課題」にて総合的に評価する。	
その他	0	なし。	
教科書			

なし。
適宜資料配布。

参考文献

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社

義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社
義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店
義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。
実際の装具製作では、服装は自由ですが汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学実習(1組)				ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
装具の実習では、足底板、プラスチック短下肢装具を製作することにより、装具の機能と実際の処方について理解を深める。義肢に関しては、実際の下腿切断の患者様、大腿切断の患者様を通して義肢使用調整の実習を行い、義足の機能と異常歩行に対する対処方法について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車椅子の採型については車いすの患者様を通して実際の採寸し理解を深める。							
到達目標							
① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。 ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。 ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。							
授業の方法							
基本的には小グループを編成し、グループごとに装具製作や車いすの設計を行い、製作の実践について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」について「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実践について理解する。「義肢の実際」「装具の実際」について、臨床のPTや義肢装具士の先生に見学・講義を行ってもらい、「義肢」「装具」「車いす設計」の実践について学ぶ。							
ICT活用							
スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 歩行分析 プラスチック短下肢装具の製作 ① 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。 グループワークにて、疾患を想定し臨床的な装具の設計を行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	プラスチック短下肢装具の製作 ② 陽性モデル修正 足底板の製作 ① 採型と製作 歩行時の足底圧分布を計測し足底板の設計と採型・製作を行う。グループワークにて、疾患を想定し臨床的な足底板の設計を行う。	足底板を設計し確認する。足部の筋・骨関節の確認をしておく。(90分)	得られた歩行データから足底板の設計を行う。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 ③ プラスチック成型へ 足底板の製作 ② 製作 グループにて協力し、プラスチック成型、制作を行う。 「装具と歩行」講義 正常歩行と装具についての講義	足底板の設計・修正、プラスチック短下肢装具の設計を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	プラスチック短下肢装具の修正・確認を行う。実習の工程をまとめる。正常歩行について復習する。(90分)
担当教員			
第4回	プラスチック短下肢装具の製作 ④ 製作、完成へ 足底板の製作 ③ 製作、完成へ 「車いす設計」 ① 車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。 歩行実習 装具装着にて歩行を行い、「正常歩行との相違」についてグループワークを行う。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。プラスチック短下肢装具の設計・修正を行う。車いすについて復習をしておく。正常歩行について復習をしておく。(90分)	歩行時の足底板挿入前後の足底圧分布を比較し考察を行う。実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	義肢製作所見学 義肢装具の制作の実際について実習する。下腿切断者のデモを通して、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。	下腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	義肢装具の制作の実際について確認する。見学、実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	義肢装具の知識の整理 義肢装具のパーツ、構造について理解する。 歩行分析と大腿義足の処方の実際 ① 製作物を用いて正常歩行と装具歩行の違いについて動作分析を行い、歩容改善への応用について理解する。 ② 模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 「車いす設計」 ②車いす設計 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う	歩行周期と大腿義足の基礎事項について確認しておく。大腿義足のアライメントについて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異常歩行の対処の実際について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	「臨床における装具の実際」 臨床で従事する理学療法士を招き。「臨床における装具の実際」について学ぶ。 講義後、「義肢学」と「装具学」の実際について、まとめの課題を行う。	「臨床における装具の実際」について確認する。装具の構造について確認する。「義肢学」と「装具学」の実際と「車いすの設計の実際」について、復習しておく。(90分)	車いすの設計を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。義肢・装具の構造について確認する。(90分)
担当教員			
第8回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① 「シーティングの実際」について講義 ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について理解する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。実習の工程をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習内で製作する装具と製作に取り組む態度、実習に取り組む態度、および毎回のレポート課題および「義肢学」と「装具学」の実際課題、「車いす設計課題」にて総合的に評価する。	
その他	0	なし。	
教科書			

なし。
適宜資料配布。

参考文献

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社

義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社
義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店
義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。
実際の装具製作では、服装は自由ですが汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学実習(2組)				ナンバリング	3518
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、主に脳卒中、神経難病の運動・動作障害に対する理学療法評価と運動療法の実践における要点を習得する。							
到達目標							
1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる 2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的な手技が実践できる 3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる 4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる							
授業の方法							
講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。 適宜、グループワークや理解度の確認テストを行う。							
ICT活用							
ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。 学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、確認課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経理学療法実習の基礎1:神経障害理学療法に必要な基本所見のとりかた、姿勢・歩行の評価の基礎を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経理学療法実習の基礎2:神経障害理学療法に必要な感覚・運動機能の評価の基礎を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	神経理学療法実習の基礎3:神経障害理学療法における治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	脳卒中の理学療法1:機能的電気刺激(FES)を応用した歩行練習の実際を学ぶ。機器の適切な取り扱い方法を習得する。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	脳卒中の理学療法2:脳卒中急性期・回復期における運動療法の要点を学ぶ。長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	ケーススタディ1:模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	ケーススタディ2:模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめ課題:これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	これまでの全授業の内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(30%) 課題内容(70%)	
その他	0		
教科書			

最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社

参考文献

授業内で適宜紹介する

履修条件・留意事項等

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学実習(1組)				ナンバリング	3518
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、主に脳卒中、神経難病の運動・動作障害に対する理学療法評価と運動療法の実践における要点を習得する。							
到達目標							
1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる 2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的な手技が実践できる 3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる 4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる							
授業の方法							
講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。 適宜、グループワークや理解度の確認テストを行う。							
ICT活用							
ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。 学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、確認課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経理学療法実習の基礎1:神経障害理学療法に必要な基本所見のとりかた、姿勢・歩行の評価の基礎を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経理学療法実習の基礎2:神経障害理学療法に必要な感覚・運動機能の評価の基礎を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	神経理学療法実習の基礎3:神経障害理学療法における治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	脳卒中の理学療法1:機能的電気刺激(FES)を応用した歩行練習の実際を学ぶ。機器の適切な取り扱い方法を習得する。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	脳卒中の理学療法2:脳卒中急性期・回復期における運動療法の要点を学ぶ。長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	ケーススタディ1:模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	ケーススタディ2:模擬症例を通して臨床推論を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめ課題:これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	これまでの全授業の内容を復習しておくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(30%) 課題内容(70%)	
その他	0		
教科書			

最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社

参考文献

授業内で適宜紹介する

履修条件・留意事項等

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学実習(1組)				ナンバリング	3522
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 理学療法を行うための基本的知識・技術、課題を論理的思考や判断をもとに探究する能力を身につけることを目的とする科目である。 内部障害理学療法学で学んだ内容に基づき実習を行う。 内科学や運動生理学などの理解が必要である。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、内部障害を有する患者の評価方法、科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について実習を通して学習する。							
到達目標							
リンパ浮腫の検査、治療の流れが説明できる。 呼吸機能検査を実施し、得られたデータの解釈ができる。 呼吸理学療法の手技的な検査、治療流れが説明できる。 バイタルサインの評価からのリスク管理が説明できる。 運動耐容能を評価し、適切な運動プログラムを作成できる。							
授業の方法							
教科書、配布資料を使用し実習を行う。 終了後に各回レポートを提出する。 実習中は他の学生の迷惑にならないように努め、疑問点はその場で質問するなどして理解を深めること。 生体データを測定する実習ではそれぞれの結果についてグループディスカッションを行う。							
ICT活用							
適宜classroomにて学習の補助教材の配布する。							
実務経験のある教員の教育内容							

各科目担当者の理学療法士としての経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

実習で実際に測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布に関し教員からのフィードバックを与える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 内部障害の運動療法について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	呼吸理学療法評価 バイタルサインのチェック 触診・聴診・打診などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	呼吸理学療法評価 スパイロメトリーについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法 などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	心電図について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第6回	運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第7回	心肺運動負荷試験 CPXについて・CPX実施・運動処方箋の作成について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第8回	リンパ浮腫(医療徒手リンパドレナージ、圧迫療法、運動療法)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各実習後の提出課題 80% 出席状況および態度 20%	
その他	0	なし	
教科書			

内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院

参考文献

生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版

履修条件・留意事項等

ケーシー、Tシャツ等薄着になれるよう準備する。各回の準備は適宜掲示。
進行順を変更する場合がある。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学実習(2組)				ナンバリング	3522
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 理学療法を行うための基本的知識・技術、課題を論理的思考や判断をもとに探究する能力を身につけることを目的とする科目である。 内部障害理学療法学で学んだ内容に基づき実習を行う。 内科学や運動生理学などの理解が必要である。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、内部障害を有する患者の評価方法、科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について実習を通して学習する。							
到達目標							
リンパ浮腫の検査、治療の流れが説明できる。教科書、配布資料を使用し実習を行う。 終了後に各回レポートを提出する。 実習中は他の学生の迷惑にならないように努め、疑問点はその場で質問するなどして理解を深めること。 生体データを測定する実習ではそれぞれの結果についてグループディスカッションを行う。 呼吸機能検査を実施し、得られたデータの解釈ができる。 呼吸理学療法の徒手的な検査、治療流れが説明できる。 バイタルサインの評価からのリスク管理が説明できる。 運動耐容能を評価し、適切な運動プログラムを作成できる。							
授業の方法							
教科書、配布資料を使用し実習を行う。 終了後に各回レポートを提出する。 実習中は他の学生の迷惑にならないように努め、疑問点はその場で質問するなどして理解を深めること。 生体データを測定する実習ではそれぞれの結果についてグループディスカッションを行う。							
ICT活用							
適宜classroomにて学習の補助教材の配布などを予定。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、南部は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

実習で実際に測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布に関し教員からのフィードバックを与える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 内部障害の運動療法について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	呼吸理学療法評価 バイタルサインのチェック 触診・聴診・打診などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	呼吸理学療法評価 スパイロメトリーについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法 などについて学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	心電図について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第6回	運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第7回	心肺運動負荷試験 CPXについて・CPX実施・運動処方箋の作成について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	南部 路治		
第8回	リンパ浮腫の評価(治療医療徒手リンパドレナージ、圧迫療法、運動療法)について学ぶ。	教科書の当該部分を読んでおくこと。	用意されたレポートを作成し提出する。
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各実習後の提出課題 80% 出席状況および態度 20%	
その他	0	なし	
教科書			

内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院

参考文献

生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版

履修条件・留意事項等

ケーシー、Tシャツ等薄着になれるよう準備する。各回の準備は適宜掲示。
進行順を変更する場合がある。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学				ナンバリング	3528
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」ことも関係する。「整形外科学」や「神経内科学」などの疾患学とそれに対する理学療法学に関連し、「臨床実習」や「地域理学療法」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法の目的は、疾患や外傷による日常生活活動や生活関連動作の障害を正確に把握し、対象者の活動能力を引き出し、生活の質を高めることである。本科目では日常生活活動や生活関連動作の概念、その評価法および動作分析について学習すると共に、対象者の障害要因を国際生活機能分類の概念から理解し、問題解決のための方策について学習する。							
到達目標							
日常生活活動、生活関連動作の概念について説明することができる。 国際生活機能分類の概念について説明することができる。 日常生活活動における基本動作を運動学的に説明することができる。 一般的な福祉用具の種類や使用方法を説明することができる。 代表的な疾患の日常生活活動障害の特徴や問題点を説明することができる。							
授業の方法							
教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。							
ICT活用							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士として病院勤務した経験を活かし、日常生活活動の概念、評価法及び実際の患者への介入法の要点について抗議を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	日常生活活動の概念と範囲およびQOLについて理解する	教科書の第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日常生活活動の各種評価法について理解する。	教科書の第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	日常生活活動における姿勢や基本動作を理解し、運動療法の考え方を理解する。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	日常生活活動の評価と動作分析について理解する。	教科書第3章2-6を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	日常生活活動を支援する福祉用具について理解する。1～4回目までの内容について小テストを行う。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。また、小テストに向けて1～4回目までの総復習をすること。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	片麻痺患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-1を事前に読んでおくこと。また、片麻痺について復習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	脊髄損傷患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-2を事前に読んでおくこと。また、脊髄損傷について復習しておくこと。8回目のまとめのテストに向けて復習をしておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	変形性関節症、関節リウマチのADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。授業の最後にまとめのテストを実施する。	これまでの講義内容をまとめておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学／臼田滋／MEDICAL VIEW

参考文献

姿勢と動作／斎藤宏他／メヂカルフレンド社

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学				ナンバリング	3500
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係のある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 この科目は3年に開講される「物理療法学実習」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
医療機関において広く利用されている水、電気、光線、力などの物理的エネルギーを応用した各種物理療法の種類、目的、物理療法機器の特性、生理学的作用、治療効果、禁忌等について概説するので、これらを理解する。							
到達目標							
1. 物理療法で用いられる基本用語を用いて各治療法を説明できる。 2. 物理的刺激と生体反応の関係を説明できる。 3. 各種物理療法の適応と禁忌を説明できる。 4. 機器の特殊性を理解し、各機器の特徴や相違点を説明できる。							
授業の方法							
【プレゼンテーションの方法】パワーポイント等のスライドを用いた講義形式で進める。 【授業形態】教科書の内容を中心とした講義形式で進める。 【アクティブラーニング】授業内課題もしくは確認テストで授業の理解を確認する。							
ICT活用							
Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。							
実務経験のある教員の教育内容							

病院での理学療法士としての実務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業での確認課題については、その授業内で解答の解説を行った後に回収する。
- ・授業での確認テストについては、その授業内で回収した後に解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 物理療法総論、物理療法の歴史、理学療法における物理療法の位置付けを学ぶ。 【アクティブラーニング】物理療法について知っているものを挙げよ。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法におけるリスク管理、理学療法士に係る医療事故・医療過誤について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	温熱療法、温熱の基礎 温熱の生理的反応 熱の伝達様式、温熱療法実施上の注意点を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第4回	寒冷療法、寒冷療法の生理学的作用、寒冷療法の適応および禁忌、寒冷療法の種類、RICE処置について学ぶ。 【確認テスト:授業1～4の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		

第5回	電磁波療法Ⅰ、逆自乗の法則、ランバートの余弦則、高周波の熱発生原理と治療機器について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	高周波治療における超短波療法、極超短波療法の生理学的効果、適応と禁忌について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第7回	電磁波療法Ⅱ、光線療法の歴史、紫外線・赤外線・レーザー光線の医学的応用について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第8回	光線療法各論、紫外線・赤外線・レーザー治療の生理学的作用、適応と禁忌、治療上の注意を学ぶ。 【確認テスト:授業5～8の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第9回	超音波発生メカニズム、伝播、周波数と深達度、有効照射面積、ビーム不均等率、適当と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第10回	電気刺激療法の基礎、生体への電流作用、皮膚の電気整理、電気での生体制御などを学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		

第11回	電気刺激の臨床応用Ⅰ、痛み軽減を目的にした各種電気刺激療法の概要を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第12回	電気刺激の臨床応用Ⅱ、機能を補うための各種電気刺激療法を学ぶ。 【確認テスト:授業9～12の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第13回	温泉を含めた水治療法の紹介、生理学的作用、適応と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第14回	牽引療法、力学的機器を用いた治療 牽引療法、生理学的作用、適応と禁忌 CPM等を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
第15回	マッサージの基本手技 生理学的作用、および物理療法の総括。 【確認テスト:授業1～15の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の配点(授業毎の配点2点で10回行う。合計20点) 確認テストの配点(授業4回目、8回目、12回目、15回目に行う。各20点満点で合計80点)	

その他	0	
教科書		
物理療法学改訂版第3版 松澤 正・江口勝彦 金原出版		
参考文献		
理学療法学テキスト 物理療法学 編集 吉田秀樹 MEDICAL VIEW 理学療法学講座 物理療法学 編著 烏野 大 川村博文 医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		
毎回の授業における授業課題や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。 ただし、やむを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替の手段を講じて評価する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		理学療法総合セミナー				ナンバリング	4580
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、木村 一志、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。 理学療法を実施するための基本的な専門知識・技術を身につける科目であり、それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。							
授業の概要							
基礎医学、臨床医学、理学療法学の全領域について、4年間を通して学習した知識を整理し、理解を深める。またそれらの知識を応用して種々の疾患・症例に対し適切な理学療法評価・治療ができる能力を高めることを目的とする。学習の形態は課題に沿って行う少人数グループ学習を中心とし、各領域については教員が講義を行う。							
到達目標							
・基礎医学、臨床医学、理学療法学のそれぞれの内容を正しく理解出来る。 ・障害の診断に必要な基本的なデータを理解出来る。 ・各種症例に対し、基礎医学、臨床医学、理学療法学の知識を応用し評価治療計画を立案し、治療手技の選択が出来る。							
授業の方法							
パワーポイント、配布印刷物、教科書などを用いて講義形式で進める 模擬試験の結果についてはグループ学習を行う							
ICT活用							
講義は状況に応じてオンライン授業で行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

模擬試験の結果について解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 講義内容の説明、スケジュールの確認をする。	シラバスを読んでおくこと	講義スケジュールを確認すること
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	国家試験共通分野1 解剖学分野の問題を理解する	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	国家試験共通分野2 生理学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	木村 一志		
第4回	国家試験共通分野3 運動学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第5回	国家試験共通分野4 整形外科学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	国家試験専門分野1 理学療法評価学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	国家試験専門分野2 発達障害理学療法学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第8回	国家試験専門分野3 物理療法学分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	国家試験専門分野4 運動療法分野(中枢神経障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第10回	国家試験専門分野5 運動療法分野(運動器障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	国家試験専門分野6 補装具療法分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	牧野 均		
第12回	国家試験専門分野7 地域理学療法分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	水本 淳		
第13回	国家試験専門分野8 日常生活活動分野の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第14回	国家試験専門分野9 内部障害理学療法分野(呼吸・循環障害)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	国家試験専門分野10 内部障害理学療法分野(がん)の問題を理解する。	該当分野について事前に教科書 を読むこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	小テスト及び講義への参加態度により評価する	

その他	70	模擬試験の結果により評価する
教科書		
教科書販売期間外に提示する		
参考文献		
理学療法士国家試験対象各科目で使用した教科書		
履修条件・留意事項等		
国家試験の願書を提出した後であっても、この科目の単位を取得できない時は卒業不可となるので、国家試験を受験することができない。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅲ《旧カリ》				ナンバリング	3703
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	3
担当教員	高田 雄一、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」特に関係がある科目である。また「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」のディプロマ・ポリシーと関係している。 理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的な行動ができるようになるための科目である。1年次、2年次の臨床実習に関連して4年次臨床実習の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法実習施設において臨床実習指導者の指導のもとに、実際の症例について理学療法評価の過程を経験する。これまでに学んだ技術を用いて検査・測定を実施し、その結果を解釈・統合し、対象者の障害に関する問題点の抽出までを理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。							
到達目標							
1. 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。 2. 対象者の評価に必要な情報収集について理解できる。 3. 適切な検査・測定方法を実施できる。 4. 対象者のリスク管理に配慮できる。 5. 問題点について、実習指導者の見解や説明を理解できる。 6. 専門用語を用いて評価結果を記述できる。							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を行う。4週間の臨床実習を行い、実習後には報告会、OSCEを実施する。							
ICT活用							
オリエンテーションに関連する内容は動画にて配信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高田、松田は理学療法士としての臨床経験、臨床実習指導者の経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

臨床実習後に、学内にて実習報告会を実施し、発表、質疑応答を行なう。
必要に応じてゼミ担当教員、臨床実習Ⅳ担当教員と面談を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前学習 基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を実施する。	実習前試験(筆記試験、OSCE)に向けてこれまで学んだ内容について予習する。	試験結果を基に臨床実習に向けた準備を行う。
担当教員			
第2回	実習前オリエンテーション 実習の手引きをもとに実習内容についての説明と注意事項の確認を行う。	実習の手引きをよく読んでおく。	オリエンテーションにて説明した内容について復習する。
担当教員			
第3回	4週間の臨床実習を行う。	臨床実習指導者の指導のもとに、理学療法評価を経験し、統合と解釈、問題点の抽出までの過程を理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員			
第4回	実習後学習 学内において実習報告会および実習後OSCEを行う。	報告会にむけてサマリーシートを作成する。発表の準備を行う。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行う。サマリーシートの修正、再提出を行う。
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	臨床実習指導者からの報告書	

その他	70	実習前試験(筆記試験、OSCE),実習後OSCE 学内での実習報告会および提出物による成績。
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB動画付き] /才藤栄一 他/金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 /才藤栄一 他/金原出版		
参考文献		
臨床実習教育の手引き 第6版 社団法人 日本理学療法士協会		
履修条件・留意事項等		
理学療法評価学、理学療法評価学実習の単位を取得していること。 実習前試験に合格すること。 実習前試験、実習オリエンテーション、臨床実習、報告会の遅刻、欠席は原則認めない。 提出物は期限を守り提出すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリアビジョン				ナンバリング	1134
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	池野 秀則						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。また、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。							
授業の概要							
先輩理学療法士(学科教員・起業家)や他職種の方の講義を聞いて理学療法士に求められる、多角的な視点で課題を探究し、将来的なビジョンを追求することを学ぶ。							
到達目標							
1.先輩理学療法士のこれまでの経緯・研究内容・ビジョンについて聴講し、将来的な理学療法士としてのビジョンを論じることができる。 2.他職種の方の仕事の内容や理学療法士との関わりについて聴講し、関連づけることができる。							
授業の方法							
先輩理学療法士や他職種の方からパワーポイントやハンドアウトを用いて講演を聴講し、出された課題についてグループディスカッションを行い、レポート(感想文)を提出する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして理学療法士の業務内容や他職種との関りについて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.オリエンテーション ・この授業の内容と到達目標について 内容:教員になるまでの経緯と研究テーマ等について 到達目標:講師の話を聞いて自分なりのビジョンを確立する (池野)	授業概要を確認しておくこと。 (90分)	到達目標に対して自分なりのビジョンを持つこと。 (90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	講演1:教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	講演2:教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	池野 秀則		
第4回	演3:教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。 (90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	池野 秀則		

第5回	演4:教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	講演5:教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。
担当教員	池野 秀則		
第7回	講演6:他職種教員(未定) 教員になるまでの経緯と現在の研究テーマなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	講演を聞いた内容についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	講演7:起業家(未定) 起業するまでの経緯と今後のビジョンなどについて語ってもらう。	レジュメを事前に読んでおくこと。(90分)	演を聞いた内容についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出レポートの内容	
その他	0	なし	
教科書			

なし
参考文献
なし
履修条件・留意事項等
履修条件は2/3の出席。
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	1135
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。							
授業の概要							
これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。							
到達目標							
・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。 ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。 ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。グループワークを実施する。 ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。							
ICT活用							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。 ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。							
実務経験のある教員の教育内容							

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など	
教科書			

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- ・講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- ・講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		小児科学				ナンバリング	2308
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	石黒 信久						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 小児科学は、小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、理学療法士や作業療法士となるために、必ず修めておかなければならない授業である。							
授業の概要							
理学療法士・作業療法士に必要な小児科学の基礎を学習する。特に、小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価と種々の疾患の基礎について学習する。							
到達目標							
1. 小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価ができる。 2. 種々の疾患に関する知識を取得、理解し、それらの説明ができる。							
授業の方法							
対面講義を予定しているが、学習効果を考慮しWebによる講義も検討する							
ICT活用							
web講義を行う場合には、ICT(Information and Communication Technology)機能を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

小児科医として30年以上の経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義のなかで説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	新型コロナウイルス感染症:SARS-CoV-2, 疾患の概要, 検査所見, 治療, 感染対策, 学生生活を送る上での注意事項について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第2回	新生児・未熟児疾患: 新生児特有の問題, 新生児・周産期異常症, 中枢神経障害と疾患などの症状・診断・治療などについて学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第3回	先天異常と遺伝病: 染色体異常, 先天奇形, 先天代謝異常症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第4回	神経・筋・骨系疾患: 中枢神経疾患, てんかん, 発達遅滞を伴う疾患, 脊髄疾患, 末梢神経疾患, 筋疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		

第5回	循環器疾患, 呼吸器疾患および感染症: 種々の先天性心疾患および呼吸器疾患, 感染症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第6回	消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患: 種々の消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。 腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患: 種々の腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第7回	免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患: 種々の免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第8回	まとめのための筆記試験を実施する。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	試験の内容について復習しておく(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	80% 筆記試験を実施する。 20% 授業への参加度や授業態度から判断する。	
その他	0	なし	
教科書			

医学書院
《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》
小児科学 第5版

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		脳神経内科学				ナンバリング	2306
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松谷 学、林 貴士						
授業の位置づけ							
理学療法/作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「理学療法を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に特に関係する科目である。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」「内科学」等の知識をベースとし、リハビリテーションの学習において必ず修得しておくべき臨床医学のうち、脳神経内科学を学ぶ科目である。							
授業の概要							
脳神経内科疾患は、障害が中枢神経系、末梢神経系、筋肉に及び、小児から高齢者までのリハビリテーション治療の対象として重要である。臨床の現場では神経学的な検査を行い、その結果に基づき適切な治療計画と実施がなされなければならない。講義では神経系の解剖と機能を理解し、その上で各種の神経、筋疾患の臨床像と病態に基づく治療が理解できるように計画されている。							
到達目標							
・神経学的症候を神経系の解剖、機能と関連付けて述べることができる。 ・神経学的検査および補助検査を理解し、その臨床的意義を述べることができる。 ・主な脳神経内科疾患について、その特徴や臨床経過、治療法等について述べることができる。							
授業の方法							
・教科書とパワーポイントを併用して、講義形式で進める。 ・脳神経内科疾患について、症候や病態の考え方、必要な検査法について、演習でディスカッションを行い、理解を深める。 ・まとめの講義と質疑応答、および確認テストを2回行い、理解の定着を図る。							
ICT活用							
未定							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経内科診療と脳神経内科疾患のリハビリテーションに長年携わってきた。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医の資格を有する。医科大学神経内科領域の非常勤講師、臨床教授として、学生指導に関わってきた幅広い経験を活かし、脳神経内科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質疑応答の時間を設け、確認テスト終了後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	序論： 神経系の基本構造、情報伝達機能、脳神経内科疾患の大きな全体像を学習する。	教科書の第1章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第2回	中枢神経系の構造と機能： 中枢神経系を構成する各部位の構造と機能、求心性/遠心性伝導路を学習する。	教科書の第2章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第3回	末梢神経系の構造と機能： 末梢神経の構造と機能を、脳神経、脊髄神経、神経叢、自律神経を含めて学習する。	教科書の第3章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第4回	症候学1(運動・感覚系)： 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。神経学的診察法について学ぶ。	教科書の第4章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第5回	症候学2(高次脳機能): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。 とくに意識と高次脳機能障害について焦点を当てる。	教科書の第5章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第6回	神経学的診断と補助検査法: 近年のリハビリテーション臨床で重要な画像検査や各職協働に必要な生理学的検査の基本を学習する。	教科書の第6章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第7回	確認テストとその解説(1回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第6章にあり)を各自予習する。(90分一)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第8回	脳血管障害: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第9回	感染症・自己免疫疾患(脱髄疾患含む): 炎症を基盤とした疾患群を学習する。	教科書の第9章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第10回	末梢神経障害・筋疾患: 末梢神経系、筋、神経筋接合部の疾患について学ぶ。	教科書の第10章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		

第11回	脳腫瘍・頭部外傷： 脳神経外科で扱う手術が必要になることが多い疾患について学習する。	教科書の第11章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第12回	水頭症・代謝性疾患(遺伝形式含む)・脊髄疾患： 水頭症、代謝性疾患(先天代謝疾患、代謝性脳症)、脊髄疾患について学習する。	教科書の第12章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第13回	神経変性疾患1(運動障害を中心に)： 代表的な神経系の疾患群である運動障害を中心とする神経変性疾患を学ぶ。	教科書の第13章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第14回	神経変性疾患2(認知症を中心に)、頭痛、てんかん： 認知症を主体とする神経変性疾患、ならびに発作性の疾患を学習する。	教科書の第14章、第15章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第15回	確認テストとその解説(2回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第15章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト2回 ・出席回数が3分の2に達しない場合は不合格	

その他	0	なし
教科書		
永井知代子/ビジュアル臨床神経学/医歯薬出版株式会社		
参考文献		
・川平和美 編集/標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学/i医学書院 ・他 随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	2346
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・機能)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、投薬中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。							
授業の概要							
医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。作業療法、理学療法は入院治療の一環として薬物療法と、精神療法とともに行われるものである。ほとんど全ての患者は薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に出会う疾患に使用する薬剤の種類、薬効、薬効の持続、副作用について概説するので、適正な作業療法、理学療法に生かせる知識を習得する。							
到達目標							
・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。 ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。 ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。							
授業の方法							
パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。
 復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	- 作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 - 薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 - 薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 - 依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 - 自律神経系における情報伝達を理解する。 - 副交感神経系作用薬について理解する。 - 交感神経系作用薬について理解する。 - 痙縮治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	中枢神経系の疾患と薬 - 神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 - 中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 ・中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の内容を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記による復習試験で評価する。	
その他	0		
教科書			

薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

6回以上出席すること。3回以上欠席した場合、単位は認定できない。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		老年医学				ナンバリング	2316
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	瀧山 晃弘、續 佳代、佐々木 幸子、辻 幸美						
授業の位置づけ							
理学療法を行うために必要な、老年医学に関連する基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「高齢者理学療法学」の基礎となる。							
授業の概要							
超高齢社会を迎え老年学の重要性は弥が上にも増大し、高齢者医療においては診断や治療を行うのみではなく、社会生活にまで配慮した全人的医療の実践が望まれる。そのために、老年医学に関する基本的な知識を習得し、医療、リハビリテーション、看護など専門職による理解を深める。							
到達目標							
1. 老化と老年期を包括的に理解し、説明できる。 2. 高齢者の個別の疾患、障害への理解を深め、応用できる。 3. 高齢者の全人的復権、リハビリテーション看護などの重要性について理解し、説明できる。							
授業の方法							
板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。パワーポイントと配布印刷物も用いる。Google Classroomを用いた理解度確認テストを時間内に行う(全4回程度)。必要に応じてオンライン授業を実施する。 フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

各教員は医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の資格に基づく臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	加齢と老化(瀧山晃弘) ・老年学とは ・老化と加齢の定義、老化の機序 ・老化による生理機能の低下 ・老年病と老年症候群	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	高齢者に特徴的な症状と疾患1(瀧山晃弘) ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患2(瀧山晃弘) ・骨・運動器疾患 ・精神・神経疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・眼疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学・精神医学・臨床心理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患3(瀧山晃弘) ・内分泌疾患 ・血液・免疫疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	高齢者に特徴的な精神疾患(認知症とうつ)(續佳代) ・加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違いについて理解する。 ・認知症の種類とその特徴について理解する。 ・老年期のうつ病の特徴と治療について理解する。	教科書p188-204を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	續 佳代		
第6回	高齢者のリハビリテーション1 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・サルコペニア・フレイル ・転倒・骨折 ・変形性関節症	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	高齢者のリハビリテーション2 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・脳血管疾患 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	老年看護学における理論と実際(辻幸美) 内容:老年看護学の概要や老年看護学の定義、役割 行動目標:医療チームの一員である看護師が基盤としている考え方が理解できる。	教科書 32 高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健 B を熟読しておくこと。(90分)	看護師と連携することで得られる患者にとってのメリットを考える。(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	一部の講義で小テストを行う。詳細は授業中に伝える。	
その他	0	なし	
教科書			

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第5版) 編集:大内 尉義 医学書院

参考文献

必要に応じて紹介する。

履修条件・留意事項等

積極的に学修すること。

備考欄

特記事項なし。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	2384
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、續 佳代、松本 信子、鹿内 あずさ、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度）」に対応する科目である。「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論I」「作業療法概論II」と関連する。							
授業の概要							
病と老いの障害の連続化の中で、障害者、高齢者を支えるために医療と福祉と保健、施設と在宅がどう結び合っていくべきか、新しいパラダイムが求められる。予防から治療、リハビリ、社会復帰に至るまで、各専門分野のスタッフとともに職能を存分に発揮するだけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが必要である。そのためには、本学における生活習慣病および栄養管理のあり方としての栄養学はもとより、保健予防医学、スポーツ障害に対する運動療法学、日常の諸活動を対象とする作業療法学、コミュニケーション、介護、看護学など全人的ケアに欠かせない分野の理解を深める。							
到達目標							
・医療は誰のものか医療が目指すものは何かを理解できる。 ・医療システムとしてのチーム医療の目指すものは何かについて考えることができる。 ・チーム医療の方法論、課題等理解を深めることができる。							
授業の方法							
講義形式で展開する。パワーポイントと配布印刷物も用いる。 グループワークとグループ発表を行う。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤(理学療法士)、金谷(作業療法士)、續(薬剤師)、鹿内(看護師)、松本(管理栄養士)は、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	チーム医療総論 チーム医療が推進される背景や概念などを学び、多職種 チーム連携の重要性を理解し学習する。 チーム医療における理学療法士の役割 理学療法の専門性と、チームにおける役割を学ぶ。	チーム医療に関する最新の情 報を調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	チーム医療における作業療法士の役割 ・“作業”とは？ ・作業療法士は何をする職種なのか？ ・作業療法士がチーム医療で大切にしていること	作業療法士の専門性について 調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	チーム医療における薬剤師の役割 チーム医療において、薬剤師がどのような役割を果たして いるのか、理解する。	薬剤師の専門性について調べ ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	續 佳代		
第4回	保健医療チームにおける看護職の職種と役割 看護職の国家資格には、保健師、助産師、看護師、准看 護師がある。対象者の健康レベルやライフステージに合わ せた看護職の役割について学ぶ。	看護師の専門性について考え ておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		

第5回	保健医療チームにおける看護師の活動、及び、他職種との連携(鹿内) 様々な活動の場における看護師の活動内容と他職種との連携の方法、及び、その重要性について学ぶ。	前回の講義資料を読んてくること(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第6回	チーム医療における管理栄養士の役割 栄養士・管理栄養士の専門性とチーム医療における役割を学ぶ。	管理栄養士の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	松本 信子		
第7回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分) チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(80%) 受講態度・意欲等(20%)	
その他	0	なし	
教科書			

なし。
適宜、資料を配布します。

参考文献

「チーム医療」とは何か / 細田満和子 著 / 日本看護協会出版会

履修条件・留意事項等

無断欠席は厳禁。休んだ場合は欠席届を提出すること。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	2290
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。」などとも関係する。							
授業の概要							
在宅療養者と家族の生活を支える社会保障サービスおよび介護保険制度の仕組みを理解し、地域包括ケアシステムにおける関係職種・関係機関の役割について理解する。							
到達目標							
・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式で進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。							
ICT活用							
・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。
- ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域包括ケアシステム論の概要について 1) 地域包括ケアの概念 2) 地域連携の理論と方法 3) 我が国の社会保障制度の変遷 4) 我が国の医療の背景と特徴、ケアサイクルの概念と理論	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	水本 淳		
第2回	地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について 1) インテグレートケア 2) 連携の方法 3) 地域包括ケアシステムが求められる背景 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	地域医療と介護のシステム化 1) 様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第4回	地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割(水本) 1) 退院支援から地域連携におけるリハ職や看護職の役割 2) 退院支援のプロセス 小テスト1	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	水本 淳		

第5回	小テスト1の解説 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割 1) 薬剤師、ソーシャルワーカーなど他の役割 2) 地域連携の展望と課題 3) 認知症ケアが必要とする地域連携 4) 小規模多機能型居宅介護が進める地域連携 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	生活をつなぐ地域連携、医療・介護・福祉の地域ネットワークづくりの取り組み ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第7回	地域包括ケアにおける地域連携の実践 ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第8回	地域包括ケアシステムの展望について 小テスト2 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	出席を含む講義・演習への参加態度(30%) 課題レポート(30%)	
その他	40	小テスト:2回(40%)	
教科書			

地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社

参考文献

講義内で紹介する

履修条件・留意事項等

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	2288
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーのうち、全学科に共通する問題解決能力の修得、すなわち(1)問題を発見し、必要な情報を収集する能力、(2)得られた情報に基づき、適正に評価をする能力、(3)これをまとめて他者に伝える能力を身につける能力を修得する科目である。							
授業の概要							
統計に関する基礎知識の上に立って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身につける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本の設定、質問票の作成や集計、統計処理など、社会調査全般について実践的に学ぶ。							
到達目標							
①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			

第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を書き下す(150分)。
担当教員			
第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			
第10回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	架空のデータを入れて集計・解析する。その結果に基づき、調査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			

第11回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			
第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求 め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数 について事前に調べておく(30 分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有 効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出 を行う。	有効回収率に関して事前に調 べておく。また最終レポートを完 成し、提出できるように印刷して おく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインと エビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート 研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ラ ンダム化比較試験について事 前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめると ともに、講義全体で習ったことを 整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレ ポート(50点)の総合点で評価する。	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。 第8-12回の授業時には持参ください。		
履修条件・留意事項等		
この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		運動生理学				ナンバリング	3404
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	侘美 靖						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「生理学Ⅰ・Ⅱ」「運動学Ⅰ・Ⅱ」と関連し、「基礎運動療法学」の基礎となる。							
授業の概要							
「身体活動・運動」を健康で豊かな生活を送るための不可欠要素としてとらえ、運動と体力向上・健康増進の関連について学ぶ。また、身体活動に伴う体内の様々な現象をエネルギー代謝、呼吸・循環器系、骨格系および栄養学との関連に注目しながら理解する。特に、対象者の身体特性や生活環境に応じて安全で効果的な運動指導を実施するための科学的トレーニング理論や知識を修得する。							
到達目標							
・有酸素運動と無酸素運動の違いを平易な表現で説明できる。 ・運動強度の違いがもたらす身体機能の変化やエネルギー代謝系への影響を説明できる。 ・体力向上や健康増進に有用なトレーニングの実施方法を科学的に理解するための基礎知識を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと教科書、配布資料を用いて講義形式で進める。毎回の授業後に「理解度確認フォーム」を回答させ、重要語句や授業ポイント、質問・感想などを記載させる。最終回に、「理解度確認テストと課題レポート」により授業全体のまとめを行う。							
ICT活用							
・配布資料(記入式講義資料および授業内容補足版)をGoogle Classroomで公開し、準備学習と事後学習などの自主学習を支援する。 ・Google Formのアンケート作成機能を用いて授業後の理解度確認と質問・意見を回答させる。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、授業の後にGoogle Formを利用して「理解度確認フォーム」を提出させる。後日確認課題の正答と補足説明資料を全員に配布する。また、質問などがあれば次回以降の授業で回答したり、補足資料配布を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	運動生理学の概要と運動の効果(1) ・健康とは ・「やせる」方法 ・ルーの3法則(原則) 運動不足病 運動の生活化 ・「運動生理学」の範囲	教科書p1-7、p67を読んでおくこと。WHOの「健康」の定義を調べておくこと。(20分)	「ルーの3法則」と「やせる」方法の区分についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第2回	運動生理学の概要と運動の効果(2) ・安静状態、身体活動、運動、スポーツ、生活活動 ・健康関連体力と運動技能関連体力 ・ヘルスプロモーションの考え方 ・女性アスリートの三主徴	教科書p1-7、p67-70を読んでおくこと。(20分)	「健康関連体力」の内容をまとめること。(25分)
担当教員			
第3回	エネルギー理論の基礎知識 ・エネルギーの循環・エネルギー保存の法則 ・カロリーの定義・ATPの構造と役割 ・ATP生産システム・有酸素運動と無酸素運動	教科書p8-12を読んでおくこと。食品パッケージ記載の栄養成分表の内容を数点確かめておくこと。(20分)	1カロリー[cal]の定義を暗記し、加工食品中の栄養成分とカロリー数の関係を復習すること。(25分)
担当教員			
第4回	エネルギー供給システム ・ATP-PCr系・乳酸系・有酸素系 ・無酸素系エネルギー生産(非乳酸性、乳酸性) ・有酸素系エネルギー生産 ・スポーツドーピングと健康管理	教科書p8-12、p152-159を読んでおくこと。ATP生産システムを説明できるようにすること。(20分)	エネルギー連続体の概念による3種類のエネルギー供給システム利用割合を運動継続時間で説明できるようにすること。(25分)
担当教員			

第5回	運動強度と主要エネルギー源 ・AT (Anaerobic Threshold:無酸素性作業閾値) ・運動強度とエネルギー源栄養素 呼吸商(RQ)	教科書p14-17を読んでおくこと。(20分)	運動時の糖質の重要性を確認しておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	エネルギー代謝量 ・基礎代謝量と安静時代謝量 ・身体活動レベルと推定エネルギー必要量 ・Activity factor (Af)	教科書p12-24を読んでおくこと。1カロリーの定義、アトウォーター係数について復習しまとめておくこと。(20分)	メッツを使って、自分や家族・知人が大学から恵庭駅まで歩いた際のエネルギー消費量を試算すること。(25分)
担当教員			
第7回	運動強度と酸素動態(1) ・メッツ メッツ・時 (Ex:エクササイズ) ・メッツによるエネルギー消費量推定 ・%最大酸素摂取量(V02max) ・酸素需要、酸素負債 ・RMR	基礎代謝量 安静時代謝量 運動時代謝量 身体活動レベルの定義を確認しておくこと。教科書p35-37を読んでおくこと。(20分)	メッツ・時を使って、自分や家族・知人の1週間の「運動によるエネルギー消費量」を推定してみる。(25分)
担当教員			
第8回	運動強度と酸素動態(2) ・%HRmax ・%HRR ・Hb酸素解離曲線 ・乳酸蓄積と分解能力(トレーニングへの応用) ・自覚的運動強度(RPE)	教科書p25-37を読んでおくこと。(20分)	自分自身や家族・知人の運動強度50%、60%のときの心拍数を算出してみる。(25分)
担当教員			
第9回	トレーニング理論の基礎(1) ・トレーニングの原則 ・運動処方内容(FITTの原則) ・ウォーミングアップとクーリングダウン	教科書p1-7、p74-76、p95-99を読んでおくこと。(20分)	トレーニングの原則の内容をまとめておくこと。整理運動(クーリングダウン)の必要性を説明できるようにすること。(25分)
担当教員			
第10回	トレーニング理論の基礎(2) ・スポーツ貧血への対応 ・健康づくりのための運動基準と運動指針(アクティブガイド) ・健康運動指導士	教科書p18-20、p67-73、p95-99、p108-110、p163-195を読んでおくこと。(20分)	「アクティブガイド」の概要を把握しておくこと。(25分)
担当教員			

第11回	健康づくりのための運動プログラム ・健康づくりのための身体活動基準2013 ・ポピュレーションアプローチ	教科書p67-73、p85-110、p163-195を読んでおくこと。(20分)	「健康づくりのための身体活動基準2013」の概要を把握しておくこと(25分)
担当教員			
第12回	身体特性に応じた運動指導プログラム(1) ・ハイリスクアプローチ ・メタボリックシンドローム ・糖尿病・高血圧症・脂質代謝異常症	教科書p96-99、110-114を読んでおくこと。糖尿病の治療・生活習慣改善方法についてまとめておくこと。(20分)	糖尿病療法士、健康運動指導士などの活動についても情報を得ておくこと。(25分)
担当教員			
第13回	身体特性に応じた運動指導プログラム(2) ・介護予防とリハビリテーション ・アダプテッドスポーツ	教科書p117-130を読んでおくこと。(20分)	障がい者スポーツを取り巻く環境について情報を集めておくこと(25分)
担当教員			
第14回	地域特性に応じた運動指導 ・地域差、季節差、自然を生かした運動 ・災害被災地における運動指導	教科書p196-212を読んでおくこと。(20分)	近年の災害被災地域(地震、水害、雪害など)の運動不足に伴う健康問題について情報を集めておくこと(25分)
担当教員			
第15回	これからの健康づくり ・生涯スポーツと地域支援 ・健康生活サポート 「理解度確認と課題レポート」	教科書p213-217を読んでおくこと。(20分)	専門職としての健康サポートのあり方を考えてみること。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義後に提出する「理解度確認フォーム」の評価(50%)および15回目に実施する「理解度確認と課題レポート」(50%)による評価	

その他	0	なし
教科書		
新版 生涯スポーツと運動の科学／上杉尹宏・晴山紫恵子・川初清典監修、侘美靖・花井篤子編集／市村出版		
参考文献		
ウエルビクス運動のすすめ－健康づくりと自立維持を目指す運動の実践のために－／竹島伸生編著／ナッパ		
履修条件・留意事項等		
電卓(計算機)を使用することがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		病態運動学				ナンバリング	3406
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。 理学療法専門科目の基礎理学療学分野の科目の1つである。 理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。 理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。 対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる能力を養うための科目である。 「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」と関連し、「日常生活活動学」、「日常生活活動学実習」、「運動器障害理学療法学」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。また、「臨床実習」を理解するための基礎ともなります。							
授業の概要							
運動機能障害を有する病的状態における運動や動作の特徴について知り、臨床上の問題点について理解を深める。							
到達目標							
正常な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。 病的な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。 正常な動作と病的な動作の違いを適切な用語で記述できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。 予習、復習の確認のため、確認テストを各授業の最初と最後に実施する。また、第8回目に「まとめの課題」を行う。 「まとめの課題」後に「正常な動作と病的な動作の違い」のグループワーク課題を行い、各自提出する。 教科書に付属するweb動画を応用する。							
ICT活用							
スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は、病院施設での実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストの実施後には、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 講義の進め方、成績評価の方法について 病態運動学の領域について学ぶ 観察による姿勢・動作分析の手順について 正常動作 ①	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	正常動作 ② 寝返り起き上がり動作から歩行までの基本動作について、 多くのヒトがとる動作パターンについて観察の手順について学ぶ。	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	正常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	異常動作 歩行を中心に異常動作のチェックポイントを学ぶ。	教科書pp71-88を事前に読んでおくこと(90分)	異常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			
第4回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析 ① 脳卒中片麻痺の病態について学ぶ。 中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150-226を事前に読んでおくこと、特に前半部分を 読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常 姿勢・動作について復習をして おくこと(90分)
担当教員			

第5回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析 ② 中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150－226を事前に読んでおくこと、特に後半部分を読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ① 変形性股関節症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp71-88を事前に読んでおくこと(90分)	変形性股関節症の基本的姿勢と動作について復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第7回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ② 変形性膝関節症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp89-105を事前に読んでおくこと(90分)	変形性膝関節症の基本的姿勢と動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	高齢者の姿勢・動作・歩行分析 高齢者の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて大腿骨頸部骨折と変形性腰椎症を中心に学ぶ。 病態運動学の「まとめの課題」 課題後に、グループワークを行い自分の考えをまとめて提出。	教科書pp129-149を事前に読んでおくこと(90分)	高齢者の基本的姿勢と動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題、および「のまとめの課題」とグループワーク課題の提出と参加態度を総合的に評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

「姿勢・動作・歩行分析 第2版」臨床歩行分析研究会・畠中泰彦 羊土社

参考文献

臨床運動学 第3版 中村隆一他 医歯薬出版
運動療法学総論 第3版 吉尾雅春(編) 医学書院
神経解剖カラーテキスト 第2版 野村巖(訳) 医学書院
神経局在診断 第5版 花北順哉(訳) 文光堂
運動器疾患の評価 D.J.Magee 医歯薬出版

履修条件・留意事項等

主体的かつ積極的な授業態度が望まれる。臨床実習に向けて、実習地で評価するであろう疾患の病態について、補講を中心として授業を行います。実習に向けて、知識をまとめ直す機会にしてください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科	人間科学部 理学療法学科						
区分	専門科目 基礎理学療法学						
科目名	理学療法研究Ⅱ					ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、理学療法研究Ⅰで得られたデータを元に実験・調査研究を完成させることにより、基本的研究能力を養い、卒業研究論文作成や卒業研究発表を行う。このため「理学療法研究Ⅰ」と連動して実施する科目であり、卒後の理学療法研究の基礎となる。最終的にはDPである、理学療法学における課題を論理的に探求する能力、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける。							
授業の概要							
セミナー教員の指導の下に、理学療法研究Ⅰで得られた実験や調査データを解析および分析し、その結果を考察する。考察の過程の中で、グループ討議を通して実験および調査研究を完成させ、学科内における研究発表、論文作成まで一連の作業を通して基本的な研究能力を養う。							
到達目標							
①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。 ②障がいを持ち、理学療法が必要な対象者を、研究の対象者として研究を立案することができる ③実験や調査データを解析および分析から、論理的に考察することができる。 ④研究論文の抄録を所定の書式で完成させることができる。 ⑤研究論文発表のためのスライドを用いてプレゼンテーションできる。 ⑥研究論文発表における基本的技術、マナーを身につけることができる。							
授業の方法							
セミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探究し、その解決を同じゼミナールの所属学生と共に演習形式で実施していく。							
ICT活用							
対面指導の他にオンライン指導を併用して行う							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミナール担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、研究成果の発表会に伴い、内容についてのコメントを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究計画の立案① 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第2回	研究計画の立案② 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人)から検討する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第3回	研究計画の立案③ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第4回	研究計画の立案④ 研究疑問の検討として、研究論文を精読する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		

第5回	研究計画の立案⑤ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第6回	研究計画の立案⑥ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第7回	研究計画の立案⑦ 研究疑問の検討として、研究論文を精読して、現時点での研究状況を把握する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第8回	研究計画の立案⑧ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第9回	研究計画の立案⑨ 実現可能な研究方法を立案する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第10回	研究計画の立案⑩ 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		

第11回	研究計画の立案① 研究データのまとめ方、用いる統計解析方法の検討	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第12回	研究データの収集①	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第13回	研究データの収集②	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第14回	研究報告会① 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第15回	研究報告会② 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導のもと、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、プレゼンテーション、参加態度を総合的に評価する。また、理学療法研究Ⅰの成績評価と連動する。	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究セミナー				ナンバリング	3412
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持つための科目であり、理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤として、特定領域の学習を通して科学的思考を深める。これまでに学んだ全ての科目と関連し、収集した文献等を通して研究テーマに発展させる。卒業研究計画書を作成することにより「理学療法研究Ⅰ」「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。本科目はディプロマポリシーの、理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけていると関連している。							
授業の概要							
理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤に、「理学療法研究法」で各自が立案した研究テーマの研究背景について理解を深めるために、先行研究の検索・収集を行い、少人数グループにおいて担当セミナー教員の指導の下に特定領域の学習・討議を通して理学療法についての科学的思考を深める。さらにそれらを基礎として、理学療法研究に向けての研究課題・研究計画を立案する。							
到達目標							
①研究テーマ決定に必要な文献を収集しその概要について紹介することができる。 ②集めた文献等から生じた研究や臨床に対する疑問を基にして研究テーマを立案することができる。 ③具体的な卒業研究計画書を作成することができる。							
授業の方法							
セミナー担当教員の指導の下、少人数による理学療法手技の確認、理学療法研究に関する文献検索など、学生の主体性を重視した演習形式で実施する。							
ICT活用							
対面指導の他に必要に応じて、オンラインにて指導を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、ゼミナール担当教員や所属学生と共に理学療法手技や研究内容の確認および討論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 本科目の課題や内容およびセミナーの進め方、文献収集の方法を学ぶ。(橋田)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行うこと。(25分)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせをし、今後の研究の準備を行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	文献収集 研究テーマを探索するために文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第3回	文献講読・紹介① 収集した文献を熟読し、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第4回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		

第5回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第6回	文献講読・紹介④ 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介し、考察に対する自身の意見を発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第7回	研究テーマの検討 4年次に行う理学療法研究における研究テーマを検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第8回	研究テーマに関する文献収集・講読① 研究テーマに関連した文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第9回	研究テーマに関する文献収集・講読② 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第10回	研究テーマに関する文献収集・講読③ 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行い、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		

第11回	研究テーマの決定と研究仮説の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第12回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第13回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討し、少人数グループの中で発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第14回	研究テーマ解析方法の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
第15回	卒業研究計画書案を作成する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、松田 直樹、水本 淳、南部 路治、佐		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究計画書の作成およびその内容と参加態度を総合的に評価する	

その他	0	なし
教科書		
理学療法研究法/内山靖編集/医学書院(理学療法研究法で購入)		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究法				ナンバリング	3410
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている(関心・意欲・態度)」ことと特に 関係がある科目である。これまでに学んできた専門領域の科目と関連し、「理学療法研究セミナー」「理学療法研究Ⅰ」「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法における研究の意義、研究計画の立案、先行研究論文の収集の仕方、調査・実験方法および測定機器、計測・データ分析、文献的考察および論文の書き方について学ぶとともに、国内・外の研究論文の読解演習を通して理学療法研究を理解する。							
到達目標							
理学療法における研究の意義、用語、理論、倫理が説明できる。 実験・調査計画、計測・データ分析の基本的手法について説明できる。 文献的考察を実施することができる。 論文の作成に関する基本的な手法、考え方について説明できる。							
授業の方法							
教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。 学生同士で議論、発表する回を設ける。 また、興味のある理学療法領域の先行研究の論文を読み、その内容について自身の考えをまとめたレポートを提出する。							
ICT活用							
Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士として調査・研究を行ってきた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして発表課題に対するコメント、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法研究総論:理学療法学における研究の位置付けと概要について理解する。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	研究デザイン:研究デザインの分類、各手法の利点と欠点について実例を通して学ぶ。 対象者のサンプリングについて学ぶ。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	測定手法:理学療法研究で測定する変数とその信頼性、妥当性について学ぶ。 研究における各種バイアスについて学ぶ。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	研究倫理:ヘルシンキ宣言、人を対象とした医学系研究の倫理指針について学ぶ。 個人情報の取り扱いについて学ぶ。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	統計解析:基本的な統計技法について学ぶ。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			
第6回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			
第7回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある分野の論文を熟読すること。(90分)
担当教員			
第8回	課題発表:グループで作成した研究計画書の内容を発表する。	第8回目に発表するプレゼンテーション資料を作成する。(90分)	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度および授業内での課題によって総合的に判定する。	
その他	0	なし	
教科書			

標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 内山靖編集 医学書院

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅲ				ナンバリング	3444
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に特に関連し、理学療法評価に必要な知識および技術を身につけるための科目である。 理学療法評価のうち、脳画像および循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の読影を行うための基礎と臨床応用を扱うものである。また、健康関連QOLや患者立脚型評価といった発展的な理学療法評価方法も扱う。 本科目は、「理学療法評価学Ⅱ」、「神経障害理学療法学」「内部障害理学療法学」などの専門基礎科目全般と関連し、「臨床実習Ⅳ/V/Ⅵ」などの基礎となる。							
授業の概要							
近年の医療技術の高度化や地域包括ケアシステムの推進に伴い、理学療法が対象とする障害の構造は重複かつ複雑化している。 この状況に対応すべく、理学療法の根幹をなす評価学の基礎をより多角的な視点で学び、卒後の臨床推論能力の向上の礎とするため画像等の評価も含め、教授する。							
到達目標							
1.医用画像の撮像原理とその読影法の基礎を身につけることができる 2.脳画像を活用した理学療法評価について理解できる 3.循環器・呼吸疾患に関連した医用画像とその活用について理解できる 4.健康関連QOLの評価、患者立脚型の評価等について理解できる 5.喀痰吸引の理論と実際を理解できる							
授業の方法							
教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。 本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。学生は十分に予習をして講義に望むことが望ましい。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。							
ICT活用							
Google classroomを活用して講義資料配布、ミニテストなどを実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

南部:総合病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う
 松田:神経疾患の専門病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

ミニテストの解答解説を講義内で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	脳画像の基礎 頭部CT, MRI, 拡散テンソル画像の撮像原理と基本的読影方法を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第2回	脳画像を活用した神経理学療法の実際1 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用についての基本的な考え方を学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第3回	脳画像を活用した神経理学療法の実際2 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第4回	患者報告型アウトカムを活用した理学療法の実際 理学療法における健康関連QoL尺度、患者立脚型評価の基本的概念とその臨床応用について解説する。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		

第5回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基礎 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基本的な読影方法を学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
第6回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像を活用した理学療法の実際 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
第7回	喀痰吸引の理論と実践 喀痰吸引の理論と実際について学ぶ。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
第8回	まとめ これまでの授業内容の理解度確認のためテストを行う。	これまでの授業内容を復讐して おくこと(90分)。	テスト内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめテスト(80%) 予習課題の達成度・授業参加態度(20%)	
その他	0		
教科書			

・改訂第2版コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像.酒向正春(監),メジカルビュー者,2020

参考文献

未定(開講時までにはアナウンスします)

履修条件・留意事項等

基本的な解剖生理の用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。
講義内容についての質問は積極的にお受けしますので、積極的な参加を期待します。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅰ（2組）				ナンバリング	3446
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」に対応する科目である。理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。 なかでも、評価学実習Ⅰで実施する評価は理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習Ⅲ」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。							
授業の概要							
理学療法評価は解剖学、生理学、運動学などの形態・機能に関する基本的知識を基盤とした検査・測定の実施により、障害に対する原因や問題点を探索するものであり、治療方針を決定するための根拠となる。本科目では、神経系や呼吸・循環器系の障害に対する評価を主に学習し、結果の記載法やその解釈について学ぶ。 実習では学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。							
到達目標							
1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を説明できる。 2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。 3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。 4. 評価した結果の意義を理解し、その結果を正しく記載することができる。							
授業の方法							
教員が評価の理論的な背景について解説し、デモンストレーションを行う。 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。 複数教員で巡回し、各評価の正確性・信頼性の向上に努める。							
ICT活用							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、水本、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	反射検査: 腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		

第5回	反射検査の復習をすること。 必要時間:20分	教科書の姿勢反射検査の項目 を読んでおくこと。 必要時間:25分	姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(下肢)の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(下肢)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	日常生活活動(ADL)検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL検査、動作分析、介助方法の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	ADL検査、動作分析、介助方法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第11回	ケーススタディ 患者例を提示し、評価項目の立案・模擬患者へのオリエンテーション・評価の実施・結果の記載についてグループで討議を行った後、発表する	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	グループ討議、発表の内容を整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験)(水本) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)で、臨床実習を終了できると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
教科書			
理学療法評価学:松澤正他/南江堂 神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW			
参考文献			
ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂			
履修条件・留意事項等			

本科目は臨床実習の履修要件の1つとなる。
後期授業開始前から授業が予定されている。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅰ（1組）				ナンバリング	3446
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」に対応する科目である。理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。 なかでも、評価学実習Ⅰで実施する評価は理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習Ⅲ」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。							
授業の概要							
理学療法評価は解剖学、生理学、運動学などの形態・機能に関する基本的知識を基盤とした検査・測定の実施により、障害に対する原因や問題点を探索するものであり、治療方針を決定するための根拠となる。本科目では、神経系や呼吸・循環器系の障害に対する評価を主に学習し、結果の記載法やその解釈について学ぶ。 実習では学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。							
到達目標							
1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を説明できる。 2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。 3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。 4. 評価した結果の意義を理解し、その結果を正しく記載することができる。							
授業の方法							
教員が評価の理論的な背景について解説し、デモンストレーションを行う。 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。 複数教員で巡回し、各評価の正確性・信頼性の向上に努める。							
ICT活用							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、水本、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	反射検査: 腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	反射検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		

第5回	姿勢反射検査:座位での傾斜反応など 学生同士で検者・被検者となり、姿勢反射検査を実施し、 反応を観察する	教科書の姿勢反射検査の項目 を読んでおくこと。 必要時間:25分	姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロ ンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張 の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を 読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12 段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上 肢・手指)の項目を読んでおくこ と。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指) の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12 段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(下 肢)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(下肢)の復習 をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第10回	日常生活活動(ADL)検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、 起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL検査、動作分析 、介助方法の項目を読んでおく こと。 必要時間:25分	ADL検査、動作分析、介助方 法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第11回	ケーススタディ 患者例を提示し、評価項目の立案・模擬患者へのオリエンテーション・評価の実施・結果の記載についてグループで討議を行った後、発表する	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	グループ討議、発表の内容を整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験)(水本) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)で、臨床実習を終了できると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
教科書			
理学療法評価学:松澤正他/南江堂 神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW			
参考文献			
ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂			
履修条件・留意事項等			

本科目は臨床実習の履修要件の1つとなる。
後期授業開始前から授業が予定されている。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法技術セミナー（2組）				ナンバリング	3533
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」と特に関係がある科目である。また「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。（知識・技能）」のディプロマ・ポリシーと関係している。理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピングの技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
本科目はスポーツ領域の理学療法技術として、傷害、パフォーマンス改善に対するインソールとテーピングの技術について展開する構成になっている。前半は、インソールを作成するための理論と評価について実技を交えながら学習し、最後はインソール作製を行う。またトップアスリートから多くのスポーツ競技で求められる「速く走る」ために必要なトレーニングについても実習を通して学ぶ。後半は、スポーツ・リハビリテーションや傷害予防の観点から、テーピングについて学び実施できるよう実技練習を行う。							
到達目標							
1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。 2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。 3. インソール作成の手順を説明できる。 4. 関節を安定させるために必要な基本的なテープの巻き方を説明することができる。 5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。							
授業の方法							
教員が手技の理論的な背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	走動作に必要なトレーニングの実技演習①	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	走動作に必要なトレーニングの実技演習②	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第5回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	姿勢歩行分析2	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	姿勢歩行分析3 インソール作製導入	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	インソール研磨時の手の使いか 方を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	インソール作製1	第7回までの歩行分析結果をま とめる、インソールの研磨につ いて予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習す ること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	インソール作製2(高田) 確認テスト	第7回までの歩行分析結果をま とめる、インソールの研磨につ いて予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習す ること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	オリエンテーション。手関節の代表的なスポーツ傷害に対 するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目につ いて教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教 科書を見直し、理解を深めるこ と。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	大腿部の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第13回	下腿部の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	足関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	テーピングのまとめ。テーピングの実技試験	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度や課題(30点)および、確認テスト(実技試験70点)を行う。	

その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技授業の際にはTシャツと短パンを用意すること。 靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法技術セミナー（1組）				ナンバリング	3533
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」と特に関係がある科目である。また「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。（知識・技能）」のディプロマ・ポリシーと関係している。理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピングの技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
本科目はスポーツ領域の理学療法技術として、傷害、パフォーマンス改善に対するインソールとテーピングの技術について展開する構成になっている。前半は、インソールを作成するための理論と評価について実技を交えながら学習し、最後はインソール作製を行う。またトップアスリートから多くのスポーツ競技で求められる「速く走る」ために必要なトレーニングについても実習を通して学ぶ。後半は、スポーツ・リハビリテーションや傷害予防の観点から、テーピングについて学び実施できるよう実技練習を行う。							
到達目標							
1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。 2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。 3. インソール作成の手順を説明できる。 4. 関節を安定させるために必要な基本的なテープの巻き方を説明することができる。 5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。							
授業の方法							
教員が手技の理論的な背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	走動作に必要なトレーニングの実技演習①	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第4回	走動作に必要なトレーニングの実技演習②	歩行、走行について予習すること。(45分)	歩行、走行について復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第5回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	姿勢歩行分析2	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	姿勢歩行分析3 インソール作製導入	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	インソール研磨時の手の使い方を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	インソール作製1	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	インソール作製2(高田) 確認テスト	第7回までの歩行分析結果をまとめる、インソールの研磨について予習すること。(45分)	インソール作成の手順を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	オリエンテーション。手関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	大腿部の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第13回	下腿部の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	足関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	テーピングのまとめ。テーピングの実技試験	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について教科書を見直し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度や課題(30点)および、確認テスト(実技試験70点)を行う。	

その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技授業の際にはTシャツと短パンを用意すること。 靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(1組)				ナンバリング	3534
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
授業の位置づけ							
理学療法の基礎技術であるマッサージの専門的知識と技術を身につける事を達成させる。 Redcordによるサスペンションの方法と生体力学の応用を理解して、基礎と応用の技術を身につける事を達成させる。 この科目は「理学療法技術セミナーⅠ」で学んだ徒手の理学療法を基礎とする。							
授業の概要							
前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。 後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。							
到達目標							
・マッサージの理論を理解する ・マッサージの実技を習得する ・Redcord Neuracの概念を理解する ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる ・Redcordの臨床応用を行う事ができる							
授業の方法							
配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンラインでの講義を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	・Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・Redcordの理論と実技④ 感覚ー運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第10回	・Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	・Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第13回	・Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	・Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	・Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
備考欄		
都度必要な資料を配布します。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法技術セミナー(2組)				ナンバリング	3534
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
授業の位置づけ							
理学療法の基礎技術であるマッサージの専門的知識と技術を身につける事を達成させる。 Redcordによるサスペンションの方法と生体力学の応用を理解して、基礎と応用の技術を身につける事を達成させる。 この科目は「理学療法技術セミナーⅠ」で学んだ徒手の理学療法を基礎とする。							
授業の概要							
前半は治療的マッサージの理論と実技で、実践的手技を学びます。 後半はRedcord Neuracで、これはノルウェー王国で開発された治療・エクササイズです。運動器疾患をはじめ、中枢性疾患、小児、高齢者、スポーツなど幅広い分野で予防・治療・リハビリテーション等に活用され国際的にも注目されています。本セミナーはRedcord Neuracの基本的な概念の理解と実技の習得を目的に行います。							
到達目標							
マッサージの理論を理解する ・マッサージの実技を習得する ・Redcord Neuracの概念を理解する ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる ・Redcordの臨床応用を行う事ができる							
授業の方法							
配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、実技とその応用を小グループで行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンラインでの講義を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoreの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・マッサージの理論と実技① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第2回	・マッサージの理論と実技② 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・マッサージの理論と実技③ あん摩・マッサージ・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第4回	・マッサージの理論と実技④ フリクション・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第5回	・マッサージの理論と実技⑤ ファンクショナル・マッサージの実技を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第6回	・Redcordの理論と実技① Redcord Neuracの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・Redcordの理論と実技② Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第8回	・Redcordの理論と実技③ 機能評価の方法(Weak Link)OKC(開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・Redcordの理論と実技④ 感覚ー運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第10回	・Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第12回	・Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第13回	・Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第14回	・Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
第15回	・Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ 少人数グループに分け、課題の発表を行う	項目の予習をしておくこと90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること		
備考欄		
都度必要な資料を配布します。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学実習(2組)				ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識を実習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになると関連している。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、実習を通して、正常運動発達、正常運動、各種発達障害に対する理学療法評価と治療の具体的方法について学習する。 観察実習はゲスト講師から動画によるケース提供がある。発達障害を持つ子どもの運動評価、制限因子、障がい構造、目標の立案、治療プログラムの立案までのClinical Reasoningをサマリー作成を通して学習する。							
到達目標							
1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する 2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる 3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる 4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる 5. 模擬患者に対する治療ハンドリングの考え方、応用方法を修得し実践できる							
授業の方法							
・運動発達の順序に従って実際に運動する ・2人一組で模擬的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。 ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする ・それぞれのケースに対してサマリーシートを作製する。							
ICT活用							
障がいのある子どもの動画をオンデマンド方式で視聴しながら実習を行う。 学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う							
実務経験のある教員の教育内容							

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、34年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 正常運動発達と正常運動分析、治療ハンドリング実習① 背臥位～歩行までの正常運動発達、正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第2回	正常運動発達と正常運動分析、治療ハンドリング実習② 正常運動を学習させるためのハンドリング、また摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前回の配付資料を確認する(30分)	ハンドリングを復習する(1時間)
担当教員			
第3回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析 教科書の動画と写真を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。それをまとめて報告書を作成する	教科書第5章、第8章の動画を確認しておく。前回の配付資料を確認しておく(2時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第4回	観察実習① 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人と3・4人のグループで動作・姿勢を評価する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを観察の中で評価する。サマリーシートの記載方法、ICFによる機能レベルについて実習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			

第5回	観察実習② 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場면을観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第6回	観察実習③ 重症心身障害のある人の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢、呼吸、姿勢ポジショニング等の理学療法場面かを観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第7回	評価・治療実習 観察実習で見た脳性麻痺や運動発達に問題のある子どもに対する治療アプローチ、評価について実習する。模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。	前回までの治療動画内容を確認しておく(1時間)	実習内容を確認しておく(1時間)
担当教員			
第8回	まとめと発達障がいを持つ人の講演・座談会(1,2組合同) 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障害を持ちながら生きることの意義について考えておくこと(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	レポート、サマリーの内容、治療手技のまとめテスト	
その他	20	実習の積極的態度、意見等を加味する。	
教科書			

イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(前期購入済み)

参考文献

小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)

履修条件・留意事項等

実習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書やgoogle classroomで提示する動画を視聴できるパソコンやタブレットが必要となる場合がある。
遅刻、欠席は原則、認めません。
積極的に発言できる人は成績ポイントを付与し、最終成績に加えます

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学実習(1組)				ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識を実習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになると関連している。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、実習を通して、正常運動発達、正常運動、各種発達障害に対する理学療法評価と治療の具体的方法について学習する。 観察実習はゲスト講師から動画によるケース提供がある。発達障害を持つ子どもの運動評価、制限因子、障がい構造、目標の立案、治療プログラムの立案までのClinical Reasoningをサマリー作成を通して学習する。							
到達目標							
1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する 2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる 3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる 4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる 5. 模擬患者に対する治療ハンドリングの考え方、応用方法を修得し実践できる							
授業の方法							
・運動発達の順序に従って実際に運動する ・2人一組で模擬的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。 ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする ・それぞれのケースに対してサマリーシートを作製する。							
ICT活用							
障がいのある子どもの動画をオンデマンド方式で視聴しながら実習を行う。 学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う							
実務経験のある教員の教育内容							

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、34年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 正常運動発達と正常運動分析、治療ハンドリング実習① 背臥位～歩行までの正常運動発達、正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	実習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第2回	正常運動発達と正常運動分析、治療ハンドリング実習② 正常運動を学習させるためのハンドリング、また摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前回の配付資料を確認する(30分)	ハンドリングを復習する(1時間)
担当教員			
第3回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析 教科書の動画と写真を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。それをまとめて報告書を作成する	教科書第5章、第8章の動画を確認しておく。前回の配付資料を確認しておく(2時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第4回	観察実習① 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人と3・4人のグループで動作・姿勢を評価する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを観察の中で評価する。サマリーシートの記載方法、ICFによる機能レベルについて実習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			

第5回	観察実習② 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第6回	観察実習③ 重症心身障害のある人の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢、呼吸、姿勢ポジショニング等の理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する	事前に提示する動画とサマリーシートの雛形を確認しておく(1時間)	実習で学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第7回	評価・治療実習 観察実習で見た脳性麻痺や運動発達に問題のある子どもに対する治療アプローチ、評価について実習する。模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。	前回までの治療動画内容を確認しておく(1時間)	実習内容を確認しておく(1時間)
担当教員			
第8回	まとめと発達障がいを持つ人の講演・座談会(1,2組合同) 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障害を持ちながら生きることの意義について考えておくこと(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	レポート、サマリーの内容、治療手技のまとめテスト	
その他	20	実習の積極的態度、意見等を加味する。	
教科書			

イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(前期購入済み)

参考文献

小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)

履修条件・留意事項等

実習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書やgoogle classroomで提示する動画を視聴できるパソコンやタブレットが必要となる場合がある。
遅刻、欠席は原則、認めません。
積極的に発言できる人は成績ポイントを付与し、最終成績に加えます

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(1組)				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」こととも関係する。							
授業の概要							
地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域包括ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを実施し、地域における理学療法士の役割を理解する。							
到達目標							
・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。 ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。 ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。							
授業の方法							
教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。							
ICT活用							
・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	グループワークⅢ 「学外実習Ⅰ」で調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループ発表 「グループワークⅡ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅡ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート等(30%) 発表等(30%) 参加度、受講態度・意欲(40%)	

その他	0	
教科書		
地域リハビリテーション学テキスト／南江堂		
参考文献		
地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社		
履修条件・留意事項等		
講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(2組)				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」こととも関係する。							
授業の概要							
地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域包括ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを実施し、地域における理学療法士の役割を理解する。							
到達目標							
・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。 ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。 ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。							
授業の方法							
教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。							
ICT活用							
・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	グループワークⅢ 「学外実習Ⅰ」で調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループ発表 「グループワークⅡ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅡ」のまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート等(30%) 発表等(30%) 参加度、受講態度・意欲(40%)	

その他	0	
教科書		
地域リハビリテーション学テキスト／南江堂		
参考文献		
地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社		
履修条件・留意事項等		
講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅲ(検査測定)				ナンバリング	3703
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」および、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」に対応する科目である。 1年次の臨床実習に続き、専門基礎・基礎科目で学んだ内容をもとに臨床場면을体験することを目的とし、理学療法士としての臨床場面での知識・技能やコミュニケーション能力を身につける。 この実習では検査・測定の実施とそこから得られる情報の分析が主となり、次の臨床実習における治療計画立案への準備となる。							
授業の概要							
理学療法実習施設において、これまで学んできた検査・測定などの基本的な理学療法評価手技を、実際の対象者(患者等)を相手に行うものである。検査・測定から得られた情報や結果に対する分析を行い、理学療法評価の意義と目的を考察する。また実習を通じて医療人としての適性を学び、人間のおよび学術的、技術的な向上心、そして質の高いコミュニケーション能力を養う。							
到達目標							
・医療人としての適性を学び、コミュニケーション能力を養う ・クリニカルクラークシップによって、指導者から理学療法評価(検査・測定)の実践を学び理解する ・実習を通して学習意欲の向上心を養う ・検査測定の意義を理解し、実践することができる ・理学療法評価(検査・測定)の記録と報告ができる							
授業の方法							
授業の方法 実習前学習(講義・実技) 臨床施設での実習および実習指導者による指導 実習後学習(症例サマリー作成, 報告会発表) 報告会では質疑応答などのディスカッションを行う							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での実習準備を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者はこれまでの臨床・研究経験を基に履修者が到達目標を達成するために必要な指導を具体的に行なう。

課題に対するフィードバックの方法

実習報告会において、各症例に対する学生相互のディスカッションを軸に、適宜教員からの意見を加えフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・実習前 実習前セミナー、実習オリエンテーション(実習心得)、基礎知識・技術の確認(実技試験等)しておくこと。	評価学及び実習Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておくこと。教科書を参考に事前に学生同士で練習・確認しておくこと。	特に検査結果の正しい記載方法とその解釈の観点を確認しておくこと。
担当教員	松田 直樹、南部 路治、佐藤 明紀		
第2回	・学外実習 各施設の実習指導者に直接指導を受け、検査・測定を行い、実習日誌やレポートにまとめる。	事前に実習指導者とタイムスケジュールや施行する内容を十分に確認すること。	実習内容の自己及び実習指導者からのフィードバックを記録し、以後の改善・向上に向けて整理すること。
担当教員	松田 直樹、南部 路治、佐藤 明紀		
第3回	・実習後 学内において実習後報告会を行う。 報告会では、自分の学習内容と他の人の内容とを比較するなどしながらディスカッションを行う。	他の人に情報がはっきりと伝わるように報告(口頭及びサマリー)を構成する。	報告会の結果を踏まえ、サマリーを修正し提出する。
担当教員	松田 直樹、南部 路治、佐藤 明紀		
第4回			
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	臨床実習指導者からの報告書。	

その他	70	筆記試験、実習前・後の参加状況と課題、 学内での報告会および提出物による成績。
教科書		
理学療法評価学改訂第6版／松澤正 著／金原出版		
参考文献		
PT臨床実習チェックリスト／青木主税編集／メディカルビュー 理学療法学事典／奈良勲監修／医学書院		
履修条件・留意事項等		
履修条件:臨床実習Ⅰ・理学療法評価学・理学療法評価学実習Ⅰ及びⅡの単位の修得または修得見込み。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅳ(評価)				ナンバリング	3704
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	4
担当教員	高田 雄一、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」特に関係がある科目である。また「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」のディプロマ・ポリシーと関係している。 理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的な行動ができるようになるための科目である。1年次、2年次の臨床実習に関連して4年次臨床実習の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法実習施設において臨床実習指導者の指導のもとに、実際の症例について理学療法評価の過程を経験する。これまでに学んだ技術を用いて検査・測定を実施し、その結果を解釈・統合し、対象者の障害に関する問題点の抽出までを理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。							
到達目標							
1. 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。 2. 対象者の評価に必要な情報収集について理解できる。 3. 適切な検査・測定方法を実施できる。 4. 対象者のリスク管理に配慮できる。 5. 問題点について、実習指導者の見解や説明を理解できる。 6. 専門用語を用いて評価結果を記述できる。							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を行う。4週間の臨床実習を行い、実習後には報告会、OSCEを実施する。							
ICT活用							
オリエンテーションに関連する内容は動画にて配信する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高田、松田は理学療法士としての臨床経験、臨床実習指導者の経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

臨床実習後に、学内にて実習報告会を実施し、発表、質疑応答を行なう。
必要に応じてゼミ担当教員、臨床実習Ⅳ担当教員と面談を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前学習 基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を実施する。	実習前試験(筆記試験、OSCE)に向けてこれまで学んだ内容について予習する。	試験結果を基に臨床実習に向けた準備を行う。
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	実習前オリエンテーション 実習の手引きをもとに実習内容についての説明と注意事項の確認を行う。	実習の手引きをよく読んでおく。	オリエンテーションにて説明した内容について復習する。
担当教員	高田 雄一		
第3回	4週間の臨床実習を行う。	臨床実習指導者の指導のもとに、理学療法評価を経験し、統合と解釈、問題点の抽出までの過程を理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	高田 雄一		
第4回	実習後学習 学内において実習報告会および実習後OSCEを行う。	報告会にむけてサマリーシートを作成する。発表の準備を行う。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行う。サマリーシートの修正、再提出を行う。
担当教員	柴田 恵理子		

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	臨床実習指導者からの報告書	

その他	70	実習前試験(筆記試験、OSCE)、実習後OSCE 学内での実習報告会および提出物による成績。
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB動画付き] /才藤栄一 他/金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 /才藤栄一 他/金原出版		
参考文献		
臨床実習教育の手引き 第6版 社団法人 日本理学療法士協会		
履修条件・留意事項等		
理学療法評価学、理学療法評価学実習の単位を取得していること。 実習前試験に合格すること。 実習前試験、実習オリエンテーション、臨床実習、報告会、実習後OSCEの遅刻、欠席は原則認めない。 提出物は期限を守り提出すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅱ（訪問・通所）				ナンバリング	3702
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」「理学療法学科における課題を論理的に探求する能力を身につけている。」「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。」こととも関係する。							
授業の概要							
実際の通所・訪問リハビリテーションについて見学を行い、地域包括ケアシステムにおける理学療法士および関連する専門職の役割を理解する。							
到達目標							
1) 対象者（および家族）の生活特性について理解し、説明できる。 2) 対象者（および家族）や関係者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。 3) 各事業所で提供しているサービス内容の特徴を理解し説明できる。 4) 理学療法士及び他の医療従事者の業務内容と役割を理解して説明できる。 5) 対象者のニーズを理解することができる。 6) 地域における多職種との連携を理解し、説明できる。 7) 関係する保険制度について調べて、示すことができる。 8) 学内での報告会で上記について報告し、ディスカッションすることができる。							
授業の方法							
実際に実習施設に行き、見学する。 また、実習前の学習、サマリーを用いた実習後の報告会を行う。							
ICT活用							
実習前、実習中の指導として、zoomやGoogle classroomを使用した遠隔指導を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員2名は現場での実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中はデイリーノートおよびポートフォリオの提出を行う。こちらは実習指導者が主に指導する。
実習前学習は担当教員による課題提案や試験を実施し、それに対する指導を行う。
また、報告会についてはグループワーク形式にて実施し、報告会後の指導は担当教員とアドバイザー教員が行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前学習(水本・佐々木) 本実習に必要な知識について講義および試験を実施する。	事前配布資料を予習すること。(60分)	実習前学習で提案する課題について学習すること。(60分)
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳		
第2回	臨床実習(水本・佐々木) 通所・訪問リハビリテーションを見学する。 9月25日(月)～9月29日(金)の5日間。 実習施設の配置については、事前に学生に公表する。	実習に必要な知識を予習すること。 実習地への交通機関を調べること。また、施設の特徴に合わせた事前学習を行うこと。(60分)	見学した内容、不明な点を教科書、文献で調べ、デイリーノートに記載すること。(60分)
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳		
第3回	実習後学習(水本・佐々木) 実習終了時にサマリーシートを作成し、報告会を実施する。 サマリーシートについては、 1)各事業所で提供しているサービス内容の特徴 2)対象者の疾患・障害の特徴 3)対象者のニーズ 4)生活場面における理学療法の役割 5)対象者に関連する多職種連携 6)見学から学んだこと 7)実習を通じ学んだこと	サマリーシートを作成し、規定時間で発表できるよう準備を行うこと。(60分)	他者の報告内容を聞き、学んだことを整理すること。報告会で受けた指摘を踏まえ、サマリーシートを修正すること。(60分)
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳		
第4回			
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習地成績及び実習前後の学内成績で評価する。 ※成績には、出席態度、参加態度、試験結果、報告会の発表内容等を含むものとする。	

その他	0	
教科書		
特になし		
参考文献		
必要資料については事前配布する		
履修条件・留意事項等		
実習前学習、実習前オリエンテーションは原則、全出席とする。 正当な理由のない欠席の場合は、実習中止とする。 実習後学習の実習報告会を欠席した場合は実習再履修とする。 実習前学習、実習後学習(報告会)の日程については後日、連絡する。		
備考欄		